

6 新施設整備プロジェクト — 展示・空間ハイライター —

動物と展示環境の多種多様な組合せを通じて、動物園にしか語るこののできない多くのメッセージを発信するとともに、動物がその能力を発揮しつつ健康に暮らせるよう、様々な条件に配慮した18の新施設整備プロジェクトを設定し、既存の施設と合わせて、動物園の未来像の体現を目指します。

◎新施設整備に際して配慮すべき条件

○来園者、動物、作業者に安全で快適な施設とする

- ・国内外の動物種ごとの飼育基準を満たすことはもちろん、動物のQOLに配慮したものとする
- ・動物の繁殖に配慮した構造、設備を備える
- ・種の長期的維持のために十分な個体数、個体群の飼育が可能である
- ・動物本来の活発な行動を誘発し、展示できる
- ・動物の生態に配慮し、野生に近い暮らしを再現できる
- ・緑を多用し、都心においても快適な空間を提供できる

○エコ・フレンドリーな施設とする

- ・建設や維持管理において消費する資源、エネルギーを極力抑える
- ・維持管理において再生可能エネルギーを極力使用する
- ・建設や維持管理において排出する廃棄物、汚水等を極力抑える

◎新施設整備プロジェクトリスト

- 6-1) ① 【海洋動物ゾーン】
- 6-2) ② 【ふれあい・家畜ゾーン】
- 6-3) ③ 【アフリカの森ゾーン】
- 6-4) ④ 【東南アジアの森ゾーン】
- 6-5) ⑤ 【日本の森・里山ゾーン】
- 6-6) ⑥ 【アジアの森ゾーン-拡張エリア】
- 6-7) ⑦ 【新夜行性動物舎】
- 6-8) ⑧ 【適応の世界エリア】
- 6-9) ⑨ 【アジアの高地ゾーン】
- 6-10) ⑩ 【新猛禽舎】
- 6-11) ⑪ 【オセアニアの草原ゾーン】
- 6-12) ⑫ 【タイガの森ゾーン】
- 6-13) ⑬ 【将来ツル舎】
- 6-14) ⑭ 【南米の森ゾーン】
- 6-15) ⑮ 【新病院・研究棟/調理場】
- 6-16) ⑯ 【非公開飼育エリア】
- 6-17) ⑰ 【てんしばゲートひろば】
- 6-18) ⑱ 【新世界ゲートひろば】

6-1) 展示・空間ハイライター①【海洋動物ゾーン】

ゾーンコンセプト：海洋動物と遭遇する「地球縦断の旅」を通じ、地球規模の海の問題を知る

■主な飼育展示動物種：ホッキョクグマ・カリフォルニアアシカ・
フンボルトペンギン

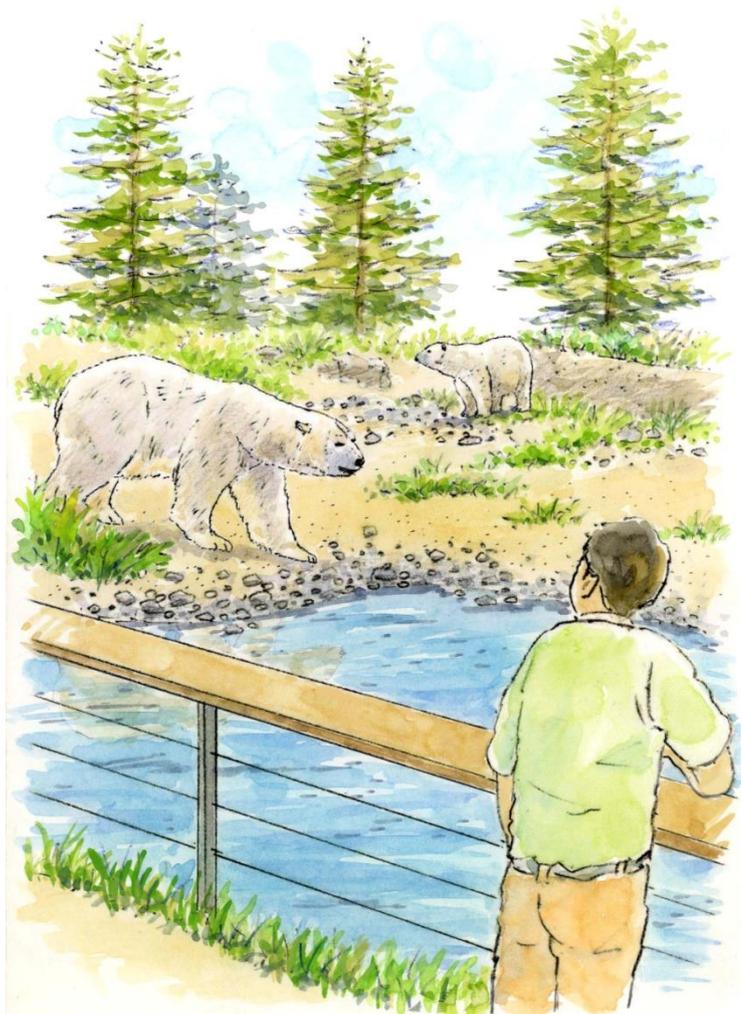
■ゾーンの主な特色

★躍動感あふれるホッキョクグマや、
アシカ・ペンギンが自在に泳ぎまわる
海洋景観が展開

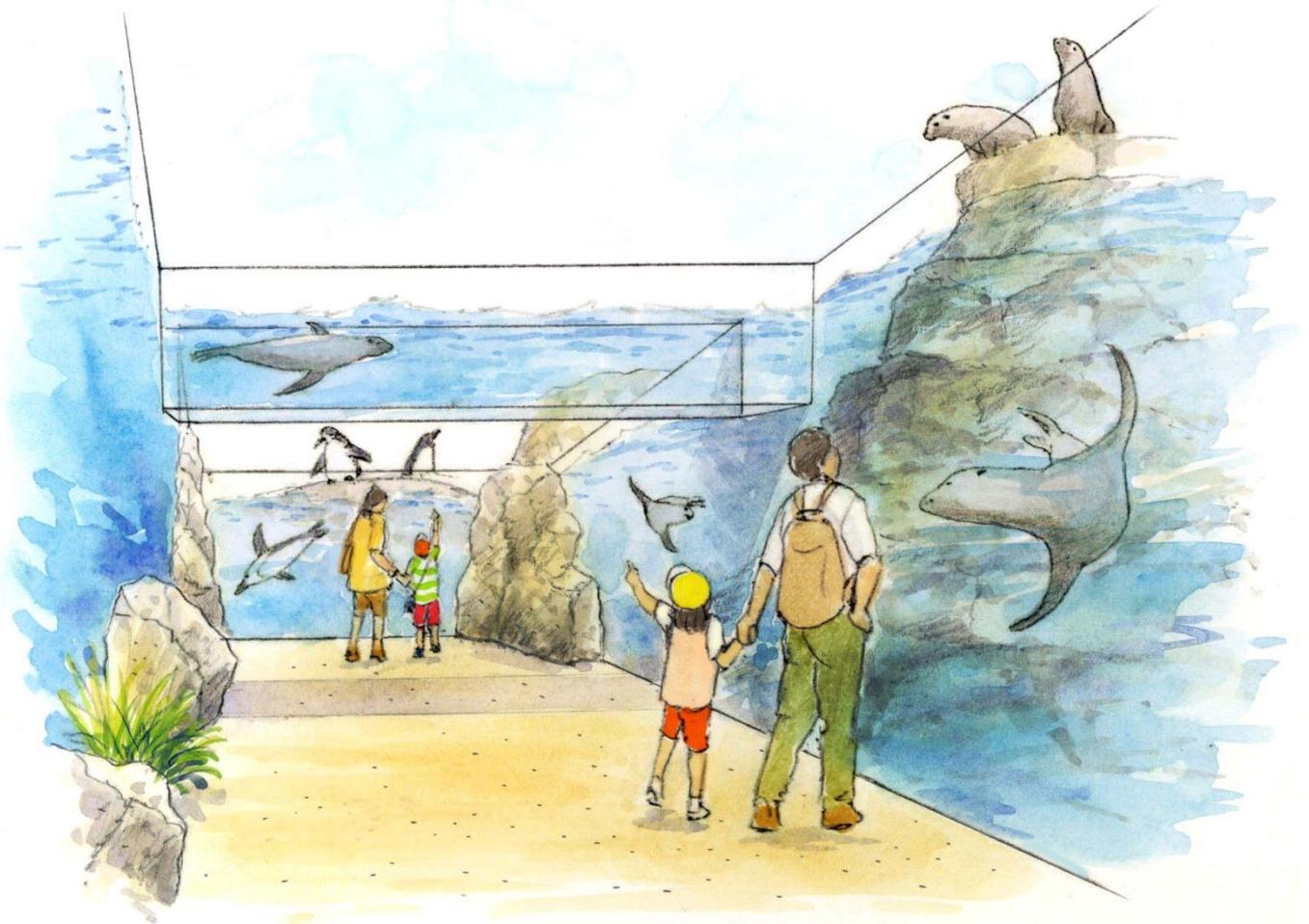


- ・アクリルを効果的に利用し、生き活きと泳ぐ動物たちの本来の姿を見せる展示を行います。また、動物たちの遊泳行動を活発化させるため、造波装置を取り入れた水環境を創出します。
- ・ペンギンの陸地エリアにウォークスルーを取り入れるなど、様々な角度から多面的に観察することができる展示環境づくりを行います。
- ・野生の海洋生物の生活環境の悪化などについて積極的に情報提供を行い、生物多様性や地球環境問題への気づきを与える展示とします。
- ・世界的な動物飼育の基準をクリアできるような飼育環境を整え、海外先進施設との繁殖協力体制の構築を目指します。

■シーンイメージ



- 豊かな陸地を悠々と闊歩する
ホッキョクグマと夏の生息地環境（上）
- ホッキョクグマの行動を誘発する水中展示のイメージ（左）



■アシカとペンギンの回遊シーンが観察可能な展示、観客の頭上を渡るアシカの通路（上）

■ペンギンの生息環境に足を踏み入れたかのようなウォークスルー（下）



6-2) 展示・空間ハイライター②【ふれあい・家畜ゾーン】

ゾーンコンセプト：人と共に生きる動物の意味と、そのあたたかさを知る

■主な飼育展示動物種：ヤギ・ヒツジ・日本産在来馬・
テンジクネズミ（モルモット）・カイウサギ



■ゾーンの主な特色

★「動物とのふれあい」によって、生命の尊さを知る

- ・人と共に生きる動物（家畜など）をより深く理解するために、農村をモチーフとした建屋を整備し、動物と暮らす生活の場を体験しながら、動物とふれあう空間を提供します。
- ・単に動物に触れるだけでなく、命の大切さや有史以来長きにわたる人と動物との関係について学ぶことができる展示を目指します。
- ・てんしばと近接した位置であることを活かして、小動物を充実させるなど、広く来園者を呼び込むことができる展示を行います。

■シーンイメージ



■古くから農耕などに用いられてきた日本産在来馬

■ヒツジ、ヤギ、テンジクネズミなどとのふれあい体験

6-3) 展示・空間ハイライト③【アフリカの森ゾーン】

ゾーンコンセプト：アフリカの自然環境で生きる、チンパンジーの高い知性を知る

■主な飼育展示動物種：チンパンジー

■ゾーンの主な特色

★群れで生きるチンパンジーの様々な行動がじっくり観察できる施設整備を行うことで、動物の知性や社会性を学ぶことのできる展示を目指す



- ・道具を用いた採食行動を引き出すなど、チンパンジーの高い知能に応じた環境エンリッチメントを提供することにより、その能力の高さを理解できる展示を行います。
- ・人に最も近く、高度な社会性を有するチンパンジーの日常生活や群れの生態を見ることのできる、ハードとソフトが連携した環境づくりを行います。

■シーンイメージ



■葉を食べるチンパンジー（上）

■チンパンジーのコミュニケーション（下）

■森に暮らすチンパンジーの様々な行動を観察

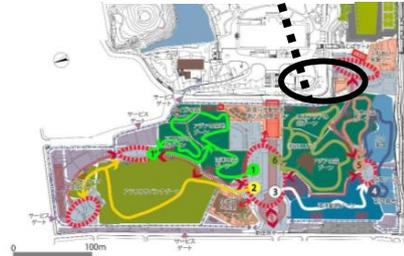
6-4) 展示・空間ハイライター④【東南アジアの森ゾーン】

ゾーンコンセプト：熱帯の森に棲む動物たちの多様性と、その身体能力の高さを知る

■主な飼育展示動物種：フクロテナガザル・シシオザル・マレーグマ・コサンケイ・ヒオドシジュケイ・ベニジュケイ ■ゾーン位置

■ゾーンの主な特色

★フクロテナガザルが、その長い手足を使い、本物の樹木をしながら自由自在にわたり歩く様子を観察できる、リアルでダイナミックな展示を展開



- ・東南アジアの森に棲む哺乳類や鳥類など多種多様な動物たちと遭遇し、動物たちの関係性を知るとともに、野生の生息地環境の危機も学ぶことができる展示とします。
- ・様々な環境エンリッチメントを実施し、野生本来の行動を引き出すことで、緑豊かな生息地の景観を背景とした、行動的な展示を実現します。

■シーンイメージ



- 東南アジアの森で出会う、マレーグマ（右上）
- シシオザル（右中）
- ベニジュケイ（右下）



- 本物の樹林の中で空中を自在に飛び回る、フクロテナガザルの展示イメージ（上）

6-5) 展示・空間ハイライト⑤【日本の森・里山ゾーン】

ゾーンコンセプト：大阪近郊の動物たちの暮らしを知り、身近な動物の存在を知る

■主な飼育展示動物種：ニホンジカ・ホンドタヌキ・
ニホンイノシシ・ニホンキジ

■ゾーンの主な特色

★里山等、身近な所に生息している動物を改めて発見

- ・都市住民が触れることの少ない里山や林縁環境を再現し、大阪近郊に暮らす動物たちの存在やその動物たちと人との関係についての理解を深めます。
- ・この空間の特色である上町台地の崖線の地形や緑を活かし、動物の行動を促す生息環境づくりを行います。
- ・外国人の来園者に対して、日本の豊かな動物相と固有の動物について知る機会を提供します。
- ・造園家-小沢圭次郎（1842-1932）作庭の既存滝組やせせらぎ等の歴史遺産を活かした、日本の里の景観演出を行います。

■ゾーン位置



■シーンイメージ



■ニホンキジ

■里山を訪れた観客の目の前に現れたニホンイノシシと、その奥で草を食み、飛び跳ねるニホンジカ

6-6) 展示・空間ハイライト⑥【アジアの森ゾーン-拡張エリア】

ゾーンコンセプト：ゾウの群れでの自然な生活を、世代を超えて維持できる森

■主な飼育展示動物種：アジアゾウ

■ゾーンの主な特色

★ゾウの繁殖や環境エンリッチメントにおいて重要な「群れ」による飼育にも対応できる施設を整備

■ゾーン位置



- ・将来的な群れ飼育に対応するため、ゾウの飼育展示エリアを拡張します。
- ・飼育下のゾウのQOL（生活の質）を向上させるとともに、繁殖を推進します。
- ・隣接する「東南アジアの森」ゾーンと観覧動線を組み合わせることにより、アジア地域の動物の多様性を表現するとともに、動物を取り巻く環境問題に対する来園者の気づきを促します。

■シーンイメージ



■熱帯雨林に群れで暮らすアジアゾウの群れ

6-7) 展示・空間ハイライター⑦【新夜行性動物舎】

ゾーンコンセプト：夜の闇で生きる動物たちの住む世界へと迷い込む

■主な飼育展示動物種：エジプトルーセットオオコウモリ・齧歯類

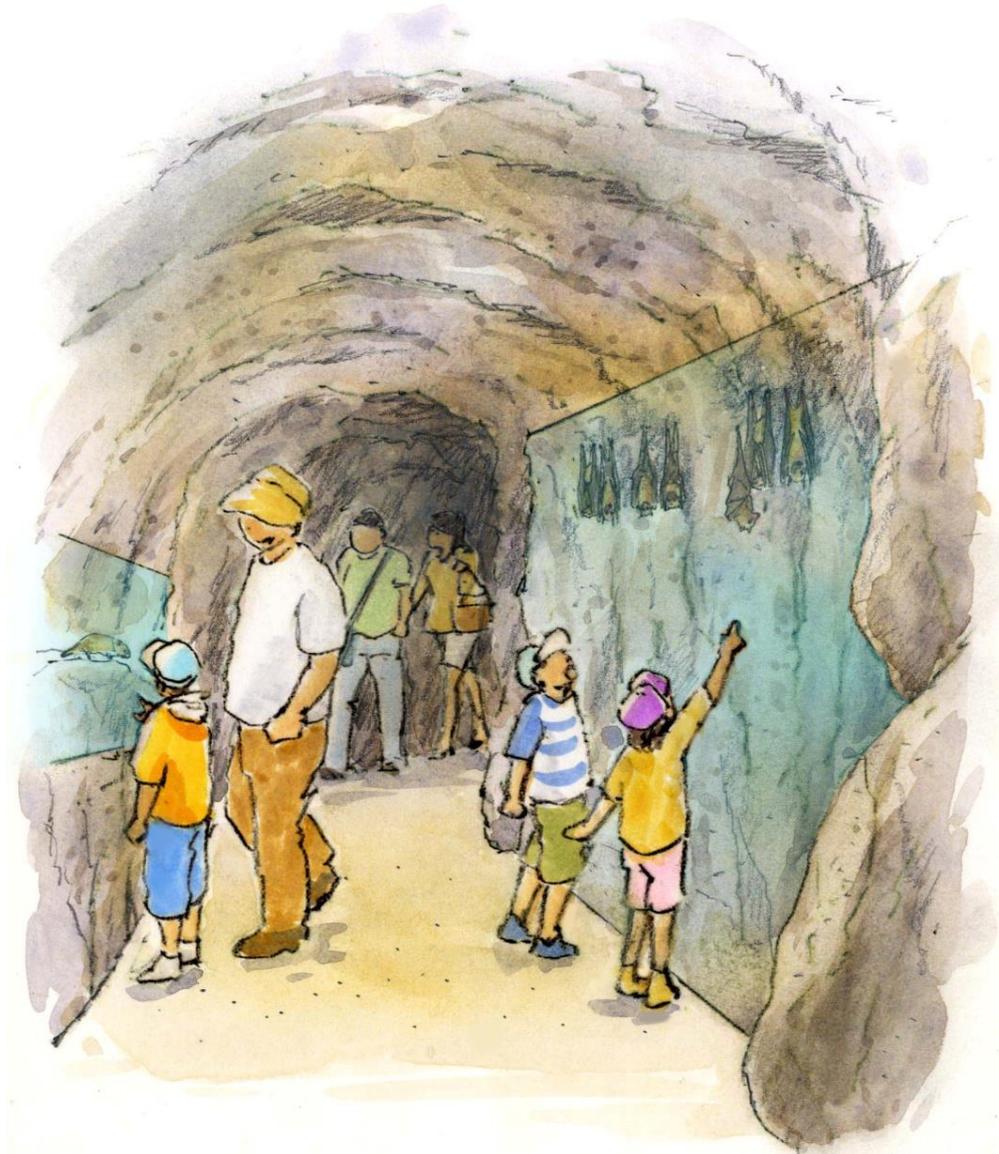
■ゾーン位置



■ゾーンの主な特色

★夜に活発化する動物たちの世界感を、洞窟風の展示の中で、五感で体感できる環境づくりを行います。

■シーンイメージ



■薄暗い洞窟に潜むエジプトルーセットオオコウモリ等

6-8) 展示・空間ハイライター⑧【適応の世界エリア】

ゾーンコンセプト：多種多様な動物たちの、個々の生態をクローズアップ

■主な飼育展示動物種：複数種が飼育可能な動物舎、
コレクション計画から今後検討

■ゾーンの主な特色

・多種多様な動物たちに関する特徴や生態について、個別に観察し、学ぶことができる屋内型施設を中心とした展示施設として整備します。

■ゾーン位置



6-9) 展示・空間ハイライター⑨【アジアの高地ゾーン】

ゾーンコンセプト：寒冷な地域に住む動物の様々な生き方を知る

■主な飼育展示動物種：チュウゴク [タイリク] オオカミ・
レッサーパンダ

■ゾーン位置

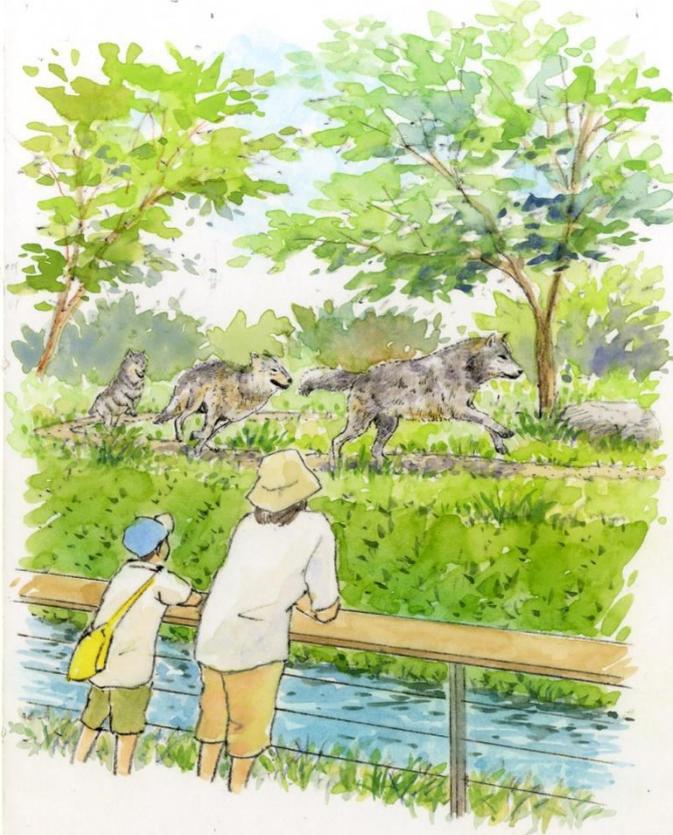


■ゾーンの主な特色

★群れで走るオオカミの迫力、樹上を走るレッサーパンダの能力等、野性動物への畏敬の念を抱かせる

- ・起伏のある森を、オオカミも来園者も共に回遊することができる空間づくりを行うことで、生き生きとした野生本来の姿が見られる空間づくりへと繋がります。
- ・かわいらしさと人気があるレッサーパンダですが、樹上での睡眠・採餌等、本来の樹上生活者としての行動を促す展示環境づくりを行います。

■シーンイメージ



▲オオカミたちの遠吠



▲樹上で暮らすレッサーパンダ

■群れで生き抜くオオカミたちの疾走

6-10) 展示・空間ハイライター⑩【新猛禽舎】

ゾーンコンセプト：森の生態系の頂点に立つ猛禽類を間近で観察

■主な飼育展示動物種：ニホンイヌワシなどの猛禽類

■ゾーン位置

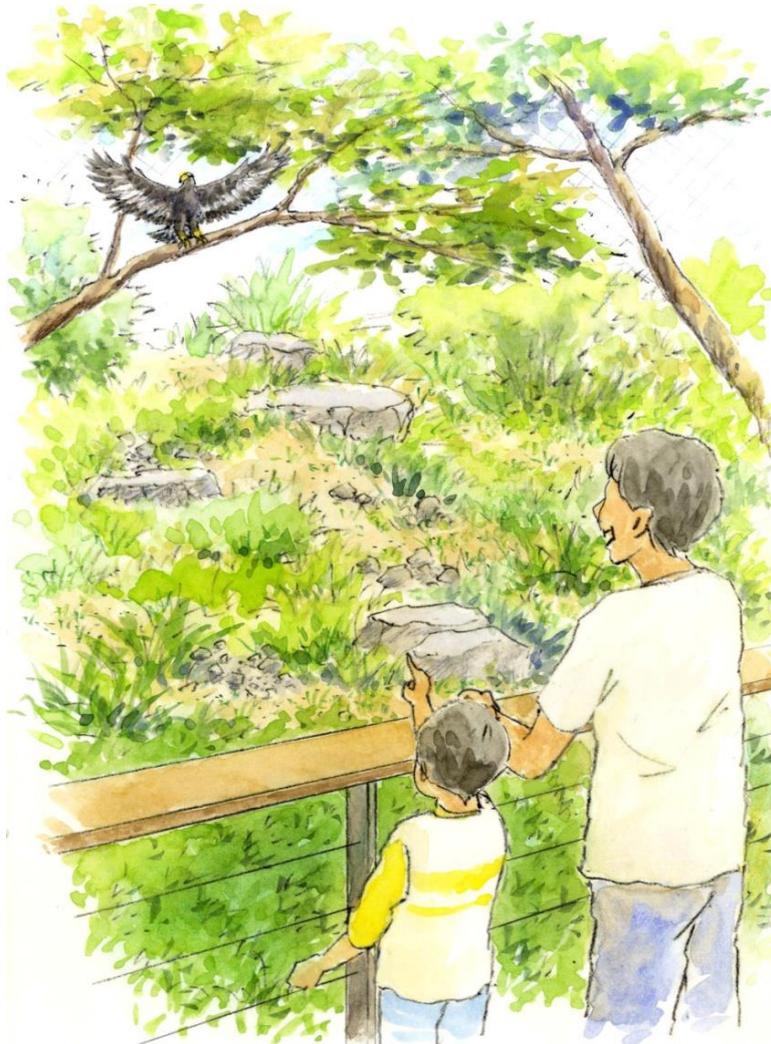


■ゾーンの主な特色

★営巣や捕食（採餌）といった迫力ある猛禽の行動を、空間配置や映像技術によって間近で観察できる展示

・猛禽の迫力を感じることのできる展示にするとともに、繁殖に配慮した動物舎の環境整備を行います。

■シーンイメージ



■岩山の樹木の梢で羽を広げるニホンイヌワシ

6-11) 展示・空間ハイライト⑪【オセアニアの草原ゾーン】

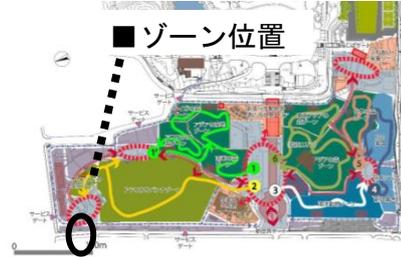
ゾーンコンセプト：独特の進化を遂げたオセアニアの動物たちの草原での暮らしを知る

■主な飼育展示動物種：カンガルー類・エミュー
インコ・オウム類

■ゾーンの主な特色

★カンガルーが、発達した足や尻尾を使いながら
飛び回る、疎林の点在する草原景観を創出

- ・ウォークスルーを取り入れ、動物をより身近に感じていただく環境を創出します。
- ・野生下では群れを成して生活するインコやオウム等の生態を知ることのできる展示を行います。



■シーンイメージ



■カラフルなインコ (左)

■カンガルーやエミュー等が暮らす草原のケージ内をウォークスルー (左)

6-12) 展示・空間ハイライト⑫【タイガの森ゾーン】

ゾーンコンセプト：極東ロシアのタイガの森の減少と保護

■主な飼育展示動物種：アムールトラ

■ゾーンの主な特色

★単独行動での縄張り空間を盛んに徘徊するトラの行動を誘発しつつ、狩りに生きる日常を学ぶ

■ゾーン位置



- ・世界最大のトラであるアムールトラの、威圧感や迫力が間近で感じられる展示を実現します。
- ・野生の生息環境に起きているトラに対する脅威や課題といった様々な課題も同時に理解できるような展示環境づくりを図ります。

■シーンイメージ



■タイガの森を悠然と闊歩するアムールトラ

6-13) 展示・空間ハイライター⑬【将来ツル舎】

ゾーンコンセプト：希少種を守る取組みを伝える

■主な飼育展示動物種：ナベヅル、ソデグロヅル、ニホンコウノトリ、タンチョウ

■ゾーンの主な特色

★希少種の保全を目的として、高い繁殖技術を活かした取り組みや、国内及び国際的な連携事業の実情を、来園者に伝える展示として整備します。

■ゾーン位置



■シーンイメージ



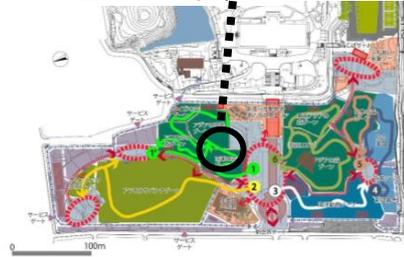
■絶滅が危惧されているナベヅル

6-14) 展示・空間ハイライト⑭【南米の森ゾーン】

ゾーンコンセプト：密林での捕食関係を学ぶことができる、南米の森づくり

■主な飼育展示動物種：ジャガー・ワタボウシパンシエ

■ゾーン位置

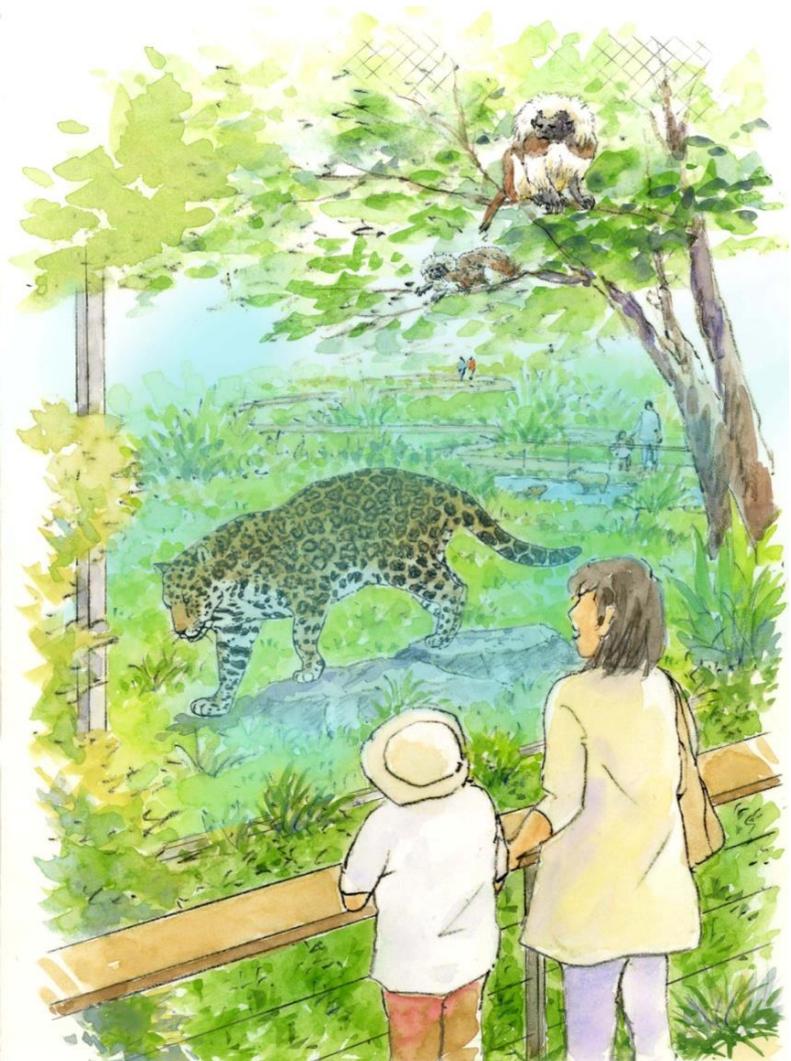


■ゾーンの主な特色

★人が踏み込みにくい密林で繰り広げられる、動物の日常生活を明らかにする

- ・迫力のあるジャガーを中心に、ワタボウシパンシエや、草食動物等（例. カピバラ）を隣接あるいは混合して展示することで、動物種間の捕食関係を学びつつ、南米の森を実感することのできる環境づくりを行います。
- ・南米の熱帯雨林における環境問題等に関する、問題提起型の展示環境づくりを進めます。
- ・新ツル舎の主構造を活かしながら、ジャガーのパドック等へと機能転換することで、無駄のない施設の転用を図ります。

■シーンイメージ



- 間近にせまるジャガー（左）、
- 密林で獲物を狙うジャガーと樹上で見つめるワタボウシパンシエ、さらに奥には捕食関係にある水辺のカピバラ（右下）

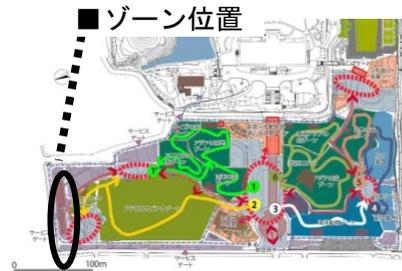
6-15) 展示・空間ハイライター⑮【新病院・研究棟/調理場】

ゾーンコンセプト：動物たちの健康な生活を保障するための、新しい病院棟・調理棟の実現

■主な飼育展示動物種： —

■ゾーンの主な特色

- ・動物を健康に維持するために必要な栄養の供給・医療の提供を、高度なレベルで実現できる施設を整備します。
- ・動物園でしかできない動物の保護・研究等の向上にも配慮し、外部連携との拡大をサポートする管理系施設を目指します。
- ・治療・研究・調理状況等が、一般来園者が部分的にでも観覧可能となる、動物園でしか実現できない開かれた施設環境整備を目指します。



《※病院棟等の課題》

- ・現病院棟は検疫や入院のための十分なスペースや設備が備わっていないため、搬入動物や傷病動物の対応が困難な状態となっています。
- ・国道側に動物病院と屋内型入院・検疫施設、国道に直接隣接しない南側に屋外型入院・検疫施設、さらには非公開飼育エリアを配置することで、防音対策に配慮します。

6-16) 展示・空間ハイライター⑯【非公開飼育エリア】

ゾーンコンセプト：動物の保全やコレクションの維持のための戦略的飼育エリア

■主な飼育展示動物種：複数種が飼育可能な動物舎、
コレクション計画から今後検討

■ゾーンの主な特色

- ・繁殖施設、一時収容施設、予備動物飼育施設、出張動物飼育施設等、展示に適さない動物種を中心に、非公開施設として適切な施設条件に配慮し整備します。



6-17) 展示・空間ハイライト⑰【てんしばゲートひろば】

拠点コンセプト：利用者満足度の向上を目指した、エントランス空間づくり

■主な施設構成：動物学習施設、スーベニアショップ、てんしばゲート（既設）、新コアラ舎

■ゾーン位置



■拠点の主な特色

★拠点施設の目玉として、ホール・講義スペース・実験室・展示による学びの空間となる「動物学習施設」を新設します。剥製や骨格標本等の展示の他に、書籍閲覧コーナー、ボランティアルーム等を整備します。

- ・ゲート空間と連携するスーベニアショップやカフェ等を、てんしばゲート北側に隣接して整備し、特に退園時における来園者の購買意欲に応えます。
- ・事業スケジュールのスムーズな進行において欠かすことのできない「コアラ舎」移転を図ります。
- ・ふれあい・家畜ゾーンと併せて、動物についての学びや体験・体感を提供します。



■動物の剥製、骨格標本、動物関連の書籍に囲まれた空間での、園長・獣医・飼育員・専門家等による学習会の様子

6-18) 展示・空間ハイライト⑱【新世界ゲートひろば】

拠点コンセプト：園内周遊のメイン拠点エリアとして、
利用者サービス向上とにぎわいの創出を目指した空間づくり

- 主な施設構成：レストラン/カフェ、スーベニアショップ、
総合案内所、雨天休憩所、無料遊具エリア、
新世界ゲート（既設）

■拠点の主な特色

★来園者がゆったりとくつろぐことができる冷暖房機能を備えたレストラン/カフェ等の設置を図ります。



- ・ゲート空間と連携するスーベニアショップを新設し、特に退園時における来園者の購買意欲に応えます。
- ・総合案内所については、わかりやすく、開かれた雰囲気をもつ整備を行うことで、来園者へのCS向上を図ります。
- ・雨天時の休憩・退避利用に応える、屋根付き休憩スペースの配置を行います。
- ・子どもの無料遊具施設を、「レストラン/カフェ」に近接する場所に配置します。なお、遊具デザインは、子どもが身体を動かして動物の能力と体験できるようなものや、自然・動物・生きものの不思議等で子どもの感受性を刺激するような、動物園スタッフとの協働によるデザイン検討を図ると共に、子どもを見守る保護者のための休憩空間にも配慮します。
- ・その他、各種レンタル、コインロッカー、ボランティアルーム等、よりわかりやすく使い勝手の良い施設整備を行うことで、園内各種サービスの向上に資するリノベーションを図ります。
- ・各種施設整備に際しては、既存のペDESTリアンデッキの構造を活かしたリノベーションを主体とした整備を図ることで、建設コストの削減を目指します。



- レストランカフェの外観イメージ（上）
- 民芸品販売イメージ（中上）
- 屋根付き休憩スペースのイメージ（中下）
- 冒険心溢れる子どものあそび場（下）

7 各種便益・サービス施設 他

7-1 便所棟について

- ・目標入園者数から必要便所穴数を計算し、必要穴数を確保します。
- ・施設・設備ともに上質なデザイン的配慮を施し、来園者サービスの向上を目指します。
- ・新施設整備に併せて、便所棟の適正配置を行います。



【便所棟のイメージ】



▲標準 TYPE-8 の外観イメージ



▲キッズトイレの内部空間イメージ (左)、ユーティリティの質を向上させた女性用トイレ (右)

7-2 誘導系サインについて

1) 構成要素

- ・現在天王寺公園全体で新たに設置がされている、誘導系新サインシステムの構成要素を前提条件に、①総合案内板、②エリア案内板、③誘導案内板、④ピクト案内板の4種類からなる誘導系サインを、本計画の観覧動線計画を踏まえ、適宜配置を行います。

2) 誘導系新サインシステムの内容構成

No	種別	内容構成	備考
①	総合案内板	周辺案内図、公園案内図	※ポスタースペースは個別に併設検討を行う
②	エリア案内板	動物園案内図、動物紹介、矢印誘導	
③	誘導案内板	矢印誘導	
④	ピクト案内板	ピクトグラムによる案内誘導	

3) 具体的な配置

- ・2箇所主要ゲートについては、公園と動物園の全体配置について、来園者に俯瞰的に把握して頂くことが重要であるため、①総合案内板と②エリア案内板を同時に配置します。
- ・各ゾーンの誘導系サインについては、ゾーン毎の詳細設計時にデザインを含め検討します。

7-3 レストラン/カフェについて

- ・目標入園者数から必要な飲食席数を算出し、必要席数を確保します。
- ・想定する施設グレードとしては、中規模程度のフードコートと、小規模な飲食スペースを園内各所の休憩スペースに適宜配置し、休みたいときにいつでもくつろげる環境を整備します。
- ・動物園内だけでなく、てんしば、新世界、美術館を含めたエリア全体におけるサービス機能のバランスを考慮し、適正配置を行います。

7-4 その他

1) 計画地周辺の野生動物対応について

- ・現在「鳥の楽園」がサギの営巣地となっていたり、園内の餌を採餌対象として狙うサギがいる等、本計画地はサギのコロニーが形成されている状況にあります。
- ・また本計画に伴うこれまで以上の緑豊かな環境形成に伴い、計画地周辺に生息する様々な野生動物の進入による食害・糞害、あるいは鳥インフルエンザ等の監視伝染病発生の可能性等、園内衛生環境の悪化リスクが想定されます。
- ・よって今後の詳細設計に際しては、ゾーン毎の景観デザインのあり方、個々の展示種に対する飼育方針との整合性、さらには周囲の野生動物との共存という視点にも配慮しながら、屋外の野生動物に対する適切なバリアを用いた進入コントロール対策や、餌管理等ソフト面での対応といった対策を検討した上で、園内衛生環境の悪化リスクの低減を図ります。

2) 展示動物環境における水質のあり方について

- ・飼育水槽内での水質レベルについては、対象とする動物種やその水槽規模毎に必要なとされる適切な水質レベルの設定を行います。
設定された水質レベルに基づき、コスト低減や維持管理面での配慮を踏まえながら、給水ろ過設備のスペックの検討を進めるものとします。

8 年次計画と総事業費

ゾーン毎に建設ローテーションを考慮し、20年間にわたる段階的な整備プロジェクトとして設定します。

	第1期 (H29~33)	第2期 (H34~38)	第3期 (H39~43)	第4期 (H44~48)	...
動物舎等	海洋動物ゾーン ふれあい・家畜ゾーン アフリカの森ゾーン		総事業費（見込） 約 85 億円 ※別途、継続使用施設の大規模改修が必要		
	東南アジアの森ゾーン 日本の森・里山ゾーン アジアの森ゾーン【拡張】				
	新夜行性動物舎 適応の世界エリア				
			アジアの高地ゾーン 新猛禽舎		
			オセアニアの草原ゾーン タイガの森ゾーン 将来ツル舎 南米の森ゾーン		
		てんしばゲートひろば （動物学習施設等）		新病院・研究棟/調理場	非公開飼育エリア
収益施設等	てんしばゲートひろば （スーベニアショップ等）				
	新世界ゲートひろば （レストラン/カフェ等）		新世界ゲートひろば （総合案内所等）		

1. 収支に係る現状と課題

(1) 収入面での現状と課題 【自主財源確保】

① 入園料収入の増加

直近の入園者数は増加傾向にありますが、収支目標である公費負担率 50%の達成のためには更なる入園料収入の増加が必須です。今後の国内の人口減少・少子高齢化を見据えると、入園者数の長期的な減少は否めません。その中で、入園者数の増加を図るには、施設リニューアルをはじめとして、イベントやPR・広報の強化等による活性化計画の確実な実施が必要です。また、インバウンド旅行者も一定割合を占めることから、周辺地域との連携等によるインバウンド増加策の実施も重要です。

また、現在の大人の入園料（500 円）は、他園と比較しても安価であり、過年度アンケートの結果も踏まえ、段階的な値上げや有料入園者の対象範囲の拡大についての検討も重要です。

◆入園料の他園比較（平成 28 年 6 月現在）

動物園名	天王寺	上野	東山	よこはま	京都市	王子	福岡市	旭山 (市外)
大人標準料金	500 円	600 円	500 円	800 円	600 円	600 円	600 円	820 円

◆過年度アンケート結果【平成 23 年 11 月 22 日・23 日実施】

＜入園料についてどのように思うか（N=362 人）＞

「概ね妥当」と感じている方が 53%で最も多く、次いで「安い」41%、「高い」6%の順であった。

② 入園料外収入の確保

動物園の魅力向上において、飲食・物販機能は非常に重要な要素のひとつです。現在、本園における園内客単価（飲食・物販）は 88 円にとどまっており、他の公立動物園と比べても大幅に低い状況です。

これは、園内でお客様の購買意欲を喚起する魅力的な物販機能が欠如していることが原因と考えられます。他園比較からは、一般的に入園料と同等額程度の園内客単価が期待できることから、当該機能の強化を通じて入園料外収入を確保し、それを自主財源として活用できる仕組みの検討も必要です。

また、企業との連携（施設協賛、イベントスポンサー、寄付等）や個人サポーターによる寄付を募る仕組みを構築し、積極的な告知展開を図る必要があります

◆園内客単価（飲食・物販）に係る他園比較

公立動物園	客単価	(参考) 民間動物園	客単価	備考
恩賜上野動物園(指定管理)	418円	アドベンチャーワールド	6,500円	入園料・遊具利用料含む
多摩動物園(指定管理)	593円	姫路セントラルパーク	825円	
天王寺動物園(直営)	88円	東武動物園	670円	

※売店・食堂等の売上高／入園者数（平成26年度実績）

積算根拠

恩賜上野動物園...東京動物園協会平成25年度決算書(飲食・物販売店の売上高÷入園者数)

多摩動物園 ...東京動物園協会平成25年度決算書(飲食・物販売店の売上高÷入園者数)

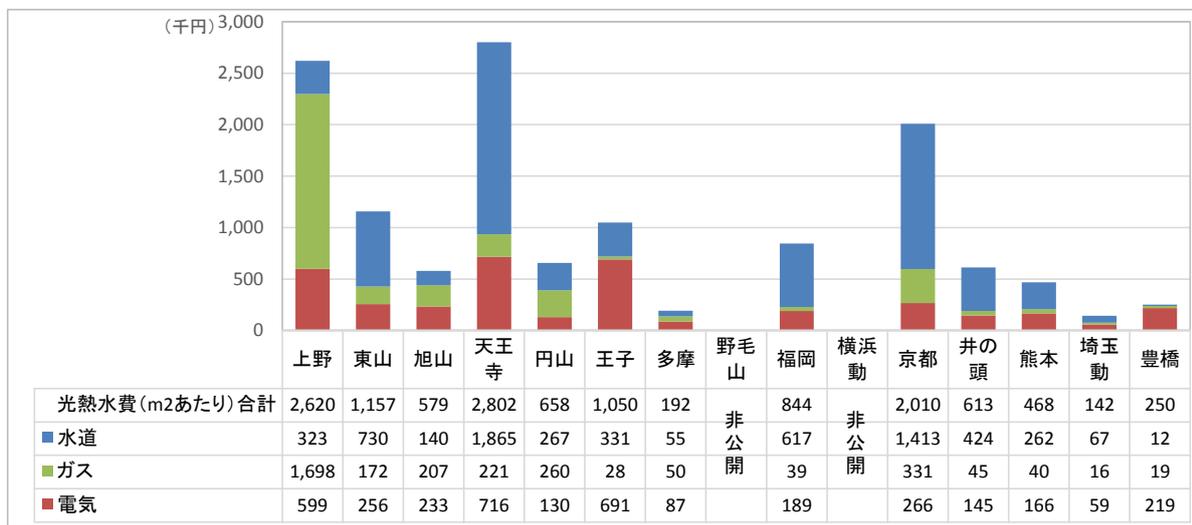
(2) 支出面での現状と課題 【支出削減】
① 人件費（総額）の削減

現在、人件費の総額は4.5～5.0億円程度で推移しています。動物園の職員は84名で構成されており、職員の平均年齢は45歳（飼育員のみでは47歳）となっており、動物園運営の硬直化が懸念されます。職員業務の機能と役割を明確にした上で、望ましい運営形態についての検討も必要です。

② 現存の施設管理費（主に光熱水費）の削減

本園の光熱水費は、公立動物園の中で最も高くなっており、それが全体に占める割合も高止まりしています。今後のリニューアル整備によって新たな光熱水費の発生も想定されることから、現存施設の光熱水費の削減を図ることが重要です。

(H29年度以降のESCO事業：爬虫類生態館（アイファー）及びカバ舎等)

(再掲) 光熱水費の他園比較


2. 計画目標達成のための対応方針（収支改善施策）

(1) 計画目標

本計画では、収支改善を推進するため、以下の2つの目標を掲げます。

<経常収支に係る2つの経営目標>

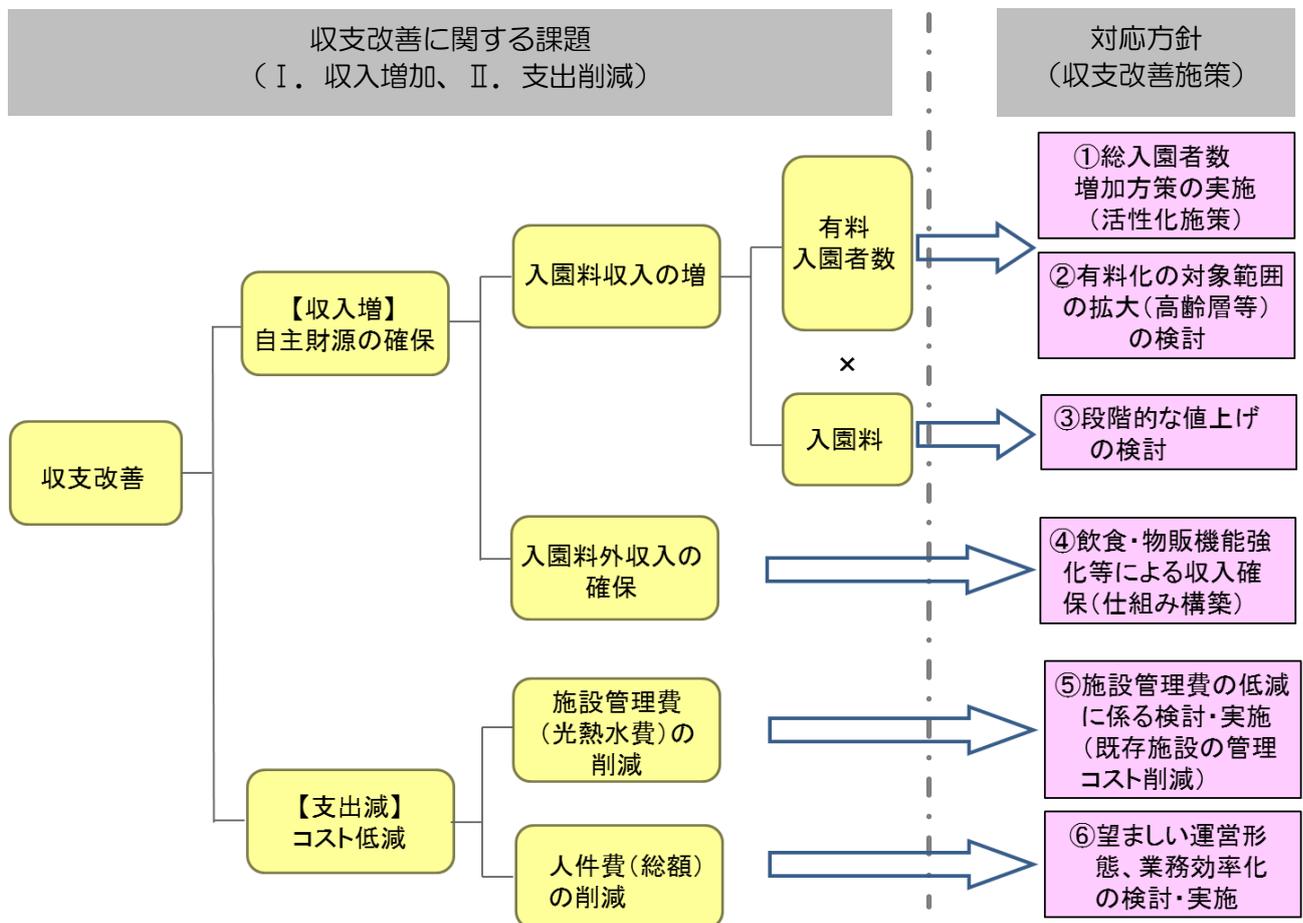
- ① サービス改善の取組みなどによって入園者数 175 万人を達成します。
- ② 運営費公費負担率（経常経費のみ）を 50% に圧縮し、さらに削減を目指します。

(2) 計画目標達成のための対応方針（収支改善施策）

前述の収支に係る現状課題を踏まえつつ、上記の2つの計画目標を達成するため、Ⅰ．収入増加への対応、Ⅱ．支出削減への対応の両面から、下記の対応方針を掲げます。

Ⅰ．収入増加への対応 ⇒ 下図 対応方針①～④（収入増加施策への展開）

Ⅱ．支出削減への対応 ⇒ 下図 対応方針⑤～⑥（支出削減施策への展開）



3. 施設整備にかかる市税負担低減について

施設整備計画において掲げた整備を着実に推進していくためには、『ZOO21計画』が停滞を招いた課題等を踏まえ、動物園自身が様々な努力を行うことによって、市税負担の低減を図っていくことが重要です。

継続的に施設リニューアルを行うことで、リピートされる来園者に対しても新たな魅力の創出・提供を続けることで、また来たいと思っただき、リニューアルと入園者数増の好循環にのせることを目指します。

(1) 施設整備費の低減

個々の動物舎等の建設にあたっては、PFIをはじめとする民間活力導入手法の検討や、使用部材のグレード等の精査を鋭意行うことで、施設整備費そのものの低減の可能性を検討していきます。

(2) 入園料外収入獲得の取組み

クラウドファンディングや動物舎へのネーミングライツ、ふるさと納税などの寄付など、入園料外収入獲得の取組みを行い、施設整備費にかかる市税負担の縮減を目指します。

4. 望ましい組織体制と経営形態

101 計画に記載した集客施設としての魅力向上、動物園を維持するための機能向上を着実に実行していくためには、それを実施し維持できる組織体制と経営形態の整備が必要です。

<組織体制の整備>

現在、出改札、清掃、警備、設備保守以外の業務はほぼ正規職員で運営実施していますが、下記の課題が挙げられ、執行体制の確保が懸念されます。動物園の全ての業務について棚卸しを実施する中で集中と選択を図り、園内組織である管理担当、動物園担当、現業管理体制の垣根を越えた効率的、機能的な業務執行体制の構築を進めた上で、必要な組織体制整備について検討していきます。

(組織体制に係る課題)

- ・動物解説の強化、ハズバンダリートレーニングの充実、植物管理などを実施する時間が確保できない。
- ・新規、拡充すべきイベント実施などで、臨機かつ柔軟な増員対応や勤務時間の変更に対応できない。
- ・強化すべき広報、イベント企画、デザイン戦略、民間企業連携、ボランティア育成などの業務は専門的なノウハウと人的つながりなど経験が必要な業務だが、人事異動により数年で担当が代わり、ノウハウと経験が蓄積されない。

<動物園に適した経営形態>

現在、動物園の管理運営は、市の直営で実施しており、市の予算、契約制度による業務執行、職員については市の人事制度による雇用、勤務体制となっているため、サービス施設の経営としては、硬直的な運営体制となっています。

これにより、動物確保などで時機を得た業務執行が困難であることや、来園者の声に迅速に対応できないこと、事業連携や入園料での民間的活性化方策提案に対応できないなど、効果的な事業実施、柔軟で効率的な運営などの面で支障があるところです。今後、本計画を実行し、動物園のさらなる活性化を進めていくためには、動物や施設、資金、人材といった限りある経営資源を確保し、効果的に活用できる仕組みの構築が必要です。これらの課題を解決するとともに、人件費などの運営コストの削減にもつながる動物園運営にふさわしい経営形態について検討を進めます。

Ⅷ 計画推進のために

1. 取組実施期間

本計画は、平成 27 年 8 月に策定した「天王寺動物園基本構想」の概念を具体化したものであり、計画内容の実行によって来園者にとって魅力的であるとともに、飼育している動物にとっても健康的で生き活きと生活することのできる動物園を目指すものです。

ここ数年、目の前の地道な改善を行ってきた結果、入園者数が増加傾向を示している現在、この状況を維持・発展させていくためには、本計画の取組内容へのスピーディな着手が必要であり、平成 31 年度までの 4 年間で各取組内容を実現すべく行動を進めることとします。ただし、施設整備に関しては、多額の財源を要するものであり、市の財政状況も踏まえた計画とする必要があるため、平成 48 年度までの 20 年間で順次施設リニューアルを進める長期計画とします。

また、本計画に記載した各取組内容を計画期間内に達成していくための「行動計画（アクションプラン）」を作成し、着実に推進、実行してまいります。

2. 弾力的な計画の運用について

本計画は、平成 27 年度時点の経営環境・運営体制をベースに今後のあるべき姿に向けた取組内容をまとめたものですが、実行にあたっては来園者ニーズや社会情勢など動物園を取り巻く状況を見極めつつ、P（計画）－D（実行）－C（評価）－A（改善）サイクルを徹底し、費用対効果等を逐次十分に検証したうえで、柔軟かつ臨機に取組んでまいります。

また、市の財政状況や民間活力の導入などの要因による取組実施期間や手法の変更についても弾力的に対応することとしつつ、動物園の使命・目的を果たせるよう努めてまいります。

3. 評価指標とチェック体制

本計画の実行を着実かつより効果的なものとするため、PDCA サイクルの一環として、市民、来園者、有識者などからその進捗状況をチェックしていただき、お客様目線でのご意見や改善提案をお受けできる仕組みを設けます。

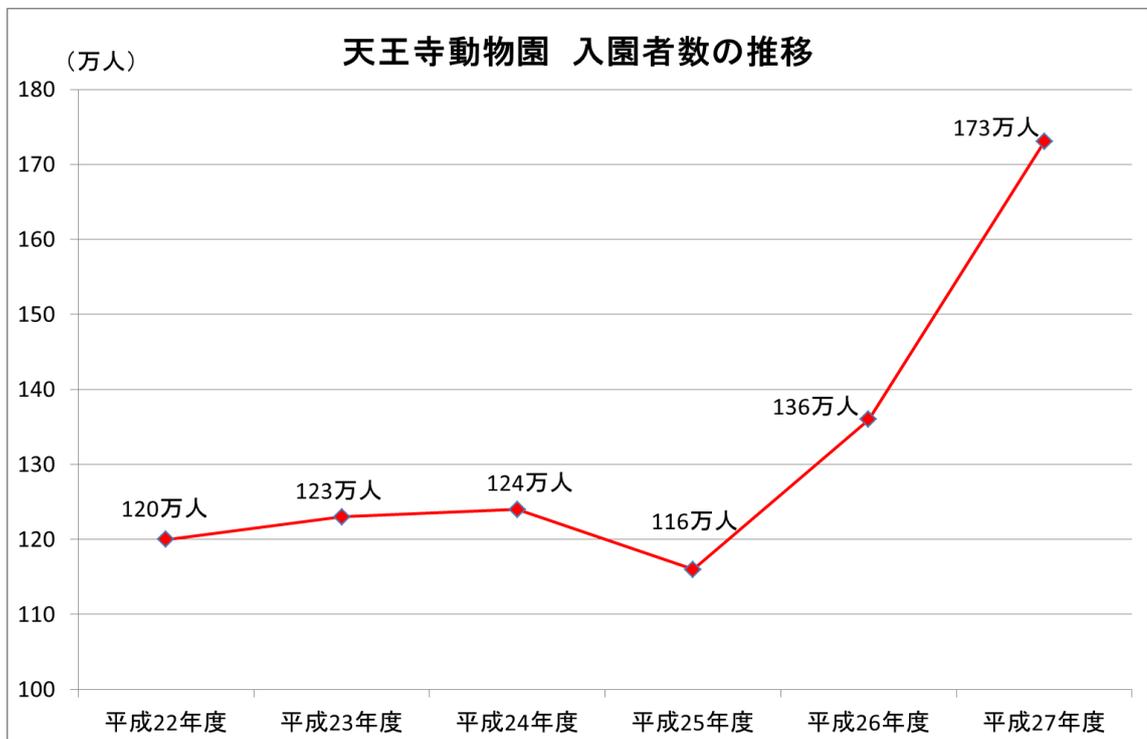
また、動物園の活動に対する来園者の評価を示す指標として、入園者数や入園料収入といった定量的なものだけでなく、来園者アンケートや市民の声など定性的な指標も含めた評価指標を開発し、きめ細かな改善活動に繋げていけるオープンな体制を構築します。

参考1 動物園の現況

1. 入園者数

(1) 入園者数の推移

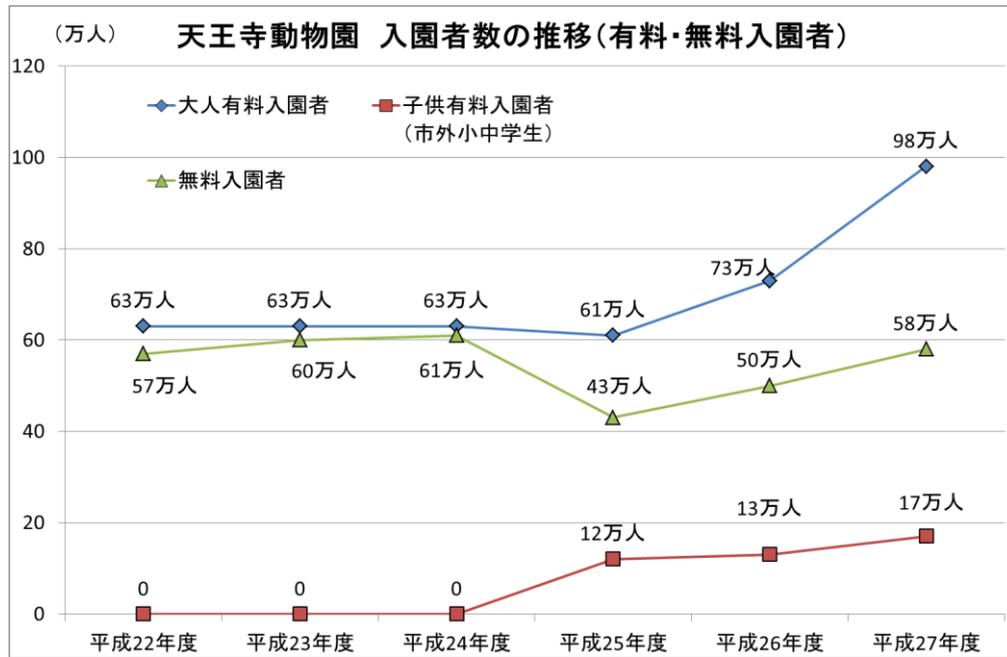
平成22年度から平成25年度までは120万人前後を推移していましたが、平成26年度より「美化、修繕、顧客目線でのサービス改善」など目の前の地道な取り組みを進めていくことで、26年度の入園者は約136万人に増加しました。平成27年度には、前年度に引き続き取組みのほか、当園が開園してから100周年を迎えたシンボルイヤーであったため、100周年記念事業による様々なイベント効果、8月・10月・3月に行ったナイトZOO、10月に天王寺公園が「てんしば」としてリニューアルオープンした相乗効果、平成26年11月に生まれたホッキョクグマの赤ちゃん「モモ」を平成27年3月より公開を開始したことにより集客効果があり、約173万人という入園者数を記録しました。



(2) 全体入園者数における有料入園者数（大人・市外小中学生）と無料入園者数

平成25年度より大阪市外在住の小中学生の入園料を有料化（200円）したことから、無料入園者数の減少が見られましたが、近年のサービス改善などの取り組みにより、大人有料入園者・子ども有料入園者・無料入園者のいずれも増加傾向にあります。

※ 無料入園者：未就学児、大阪市内在住の小中学生、大阪市内在住の65歳以上の方、身体障がい者手帳をお持ちの方など



(3) 公立動物園の入園者数上位 15 園 (平成 27 年度)

平成 27 年度における公立動物園の入園者数は、東京都の恩賜上野動物園が最も多く、397 万人でした。続いて名古屋市・東山動物園の 258 万人となり、当園は 173 万人で、年間入園者数第三位となっています。

順位	施設名称 (設置主体・運営方式)	27 年度 入園者数	26 年度 入園者数	25 年度 入園者数
1	恩賜上野動物園 (東京都・指定管理)	397 万人	369 万人	349 万人
2	東山動物園 (名古屋市・直営)	258 万人	227 万人	223 万人
3	天王寺動物園 (大阪市・直営)	173 万人	136 万人	116 万人
4	旭山動物園 (旭山市・直営)	152 万人	165 万人	165 万人
5	王子動物園 (神戸市・直営)	125 万人	117 万人	110 万人
6	よこはま動物園 (横浜市・指定管理)	122 万人	94 万人	92 万人
7	京都市動物園 (京都市・直営)	121 万人	82 万人	81 万人
8	野毛山動物園 (横浜市・指定管理)	110 万人	101 万人	97 万人
9	多摩動物公園 (東京都・指定管理)	106 万人	104 万人	100 万人
10	円山動物園 (札幌市・直営)	98 万人	132 万人	96 万人
11	福岡市動物園 (福岡市・町営)	93 万人	99 万人	95 万人
12	井の頭自然文化園 (東京都・指定管理)	90 万人	80 万人	73 万人
13	豊橋総合動植物公園 (豊橋市・直営)	77 万人	68 万人	68 万人
14	姫路市立動物園 (姫路市・直営)	76 万人	49 万人	33 万人
15	熊本市動植物園 (熊本市・直営)	75 万人	73 万人	73 万人

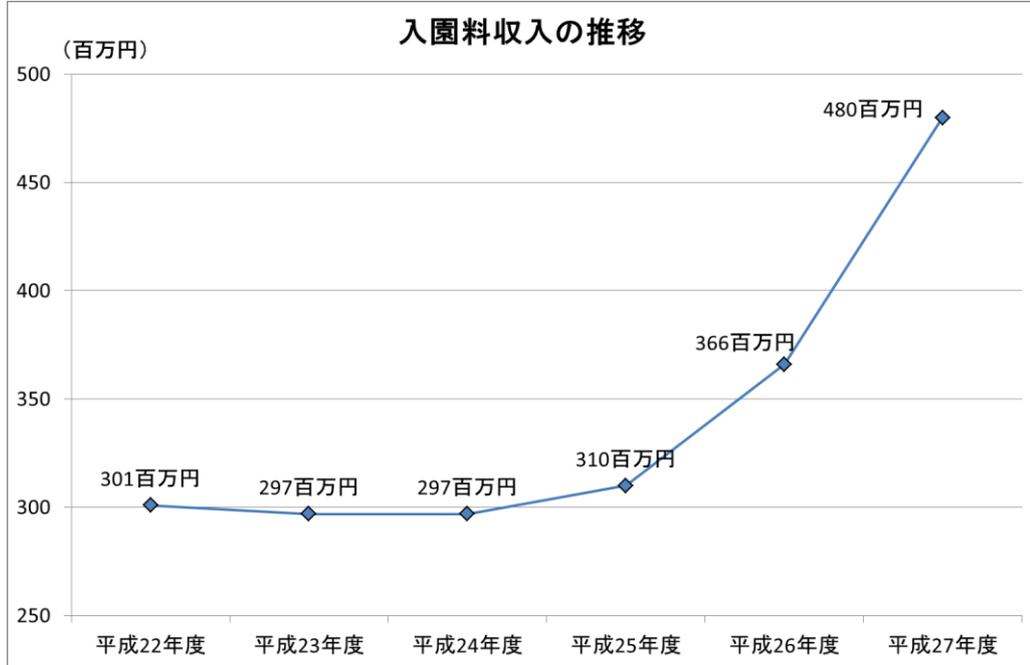
※平成 25～27 年度のいずれも日本動物園水族館年報より (ただし、当園は実数)

2. 収支

(1) 入園料収入の推移

入園料収入は、平成25年度までは3億円前後を推移していましたが、入園者数の増加に伴い、平成26年度以降は増加傾向にあります。

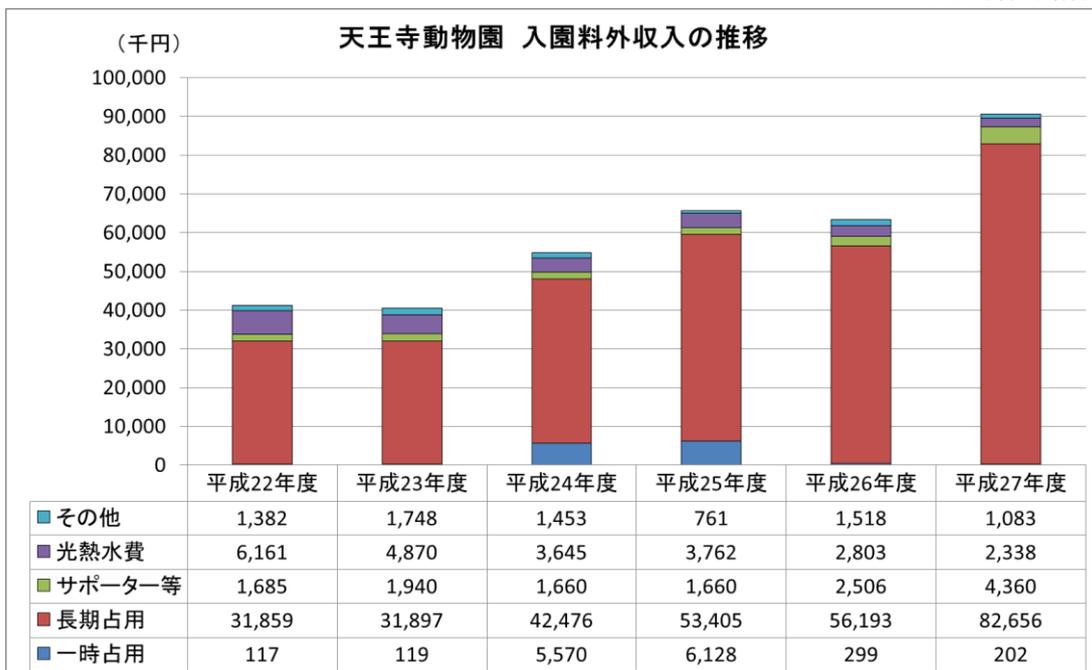
※平成27年度は決算見込



(2) 入園料外収入の推移

天王寺動物園における入園料以外の収入としては、売店・食堂などの建物の管理設置許可収入である「長期占用」、同事業のために使用した電気・ガス・水道料金の戻入の「光熱水費戻入」、工事のための占用や集会などに使用される「一時占用」、当園サポーター制度による収入などがあります。

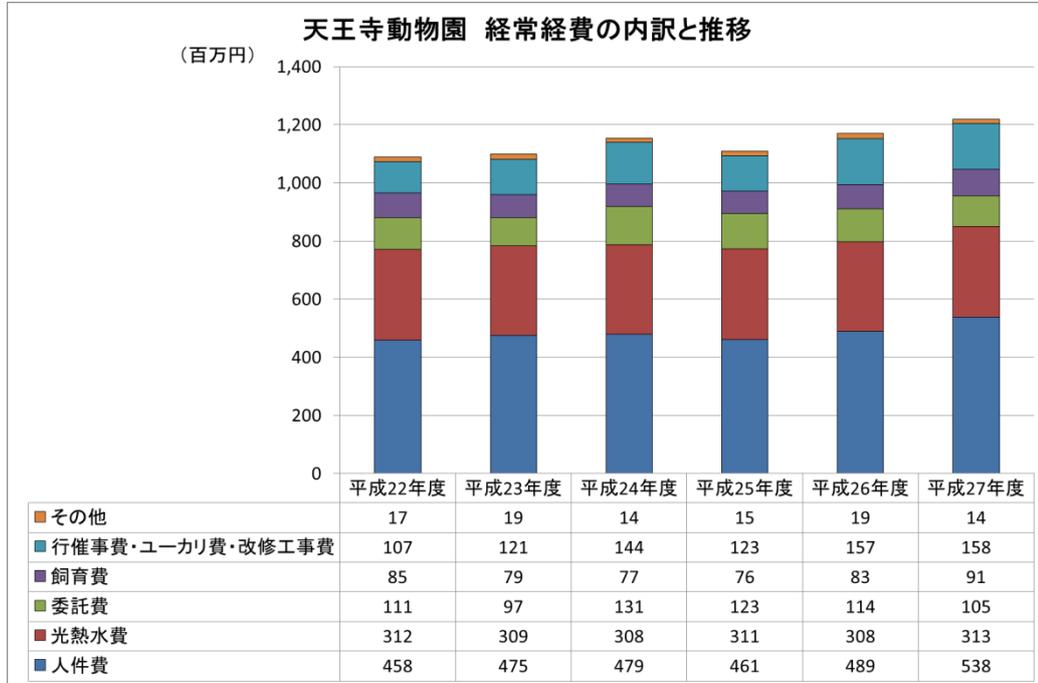
※平成27年度は決算見込



(3) 経常経費の内訳と推移

経常経費全体として、平成22年度より11億円前後を推移しています。これまでさまざまな経費削減策を取ってきたものの、いずれも頭打ち感があります。光熱水費については、ESCO事業を平成29年度より爬虫類生態館(アイファー)及びカバ舎に導入し、削減を図っていく予定です。

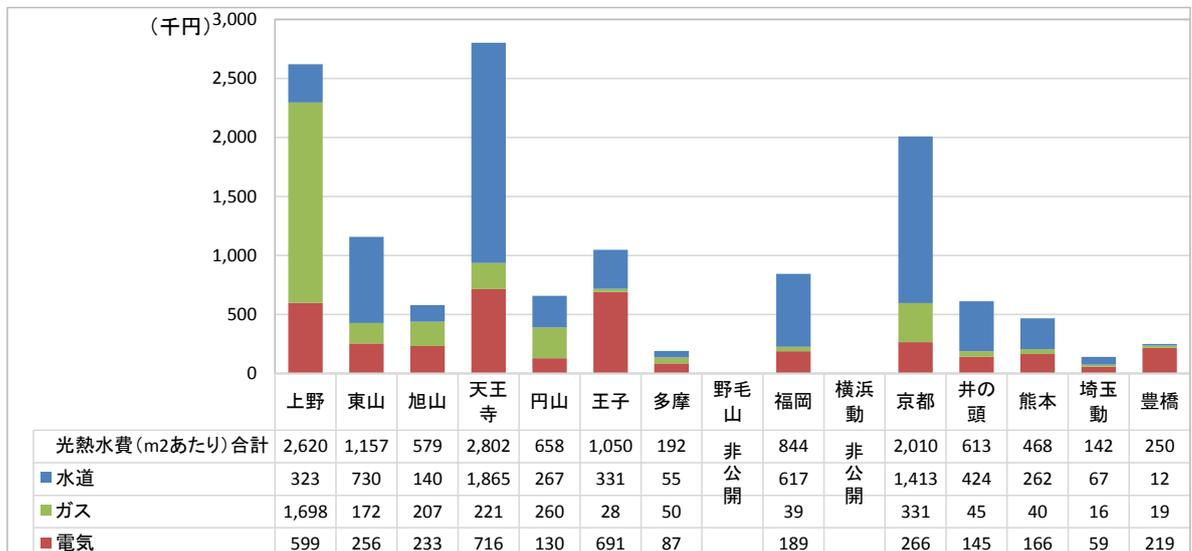
※平成27年度は決算見込



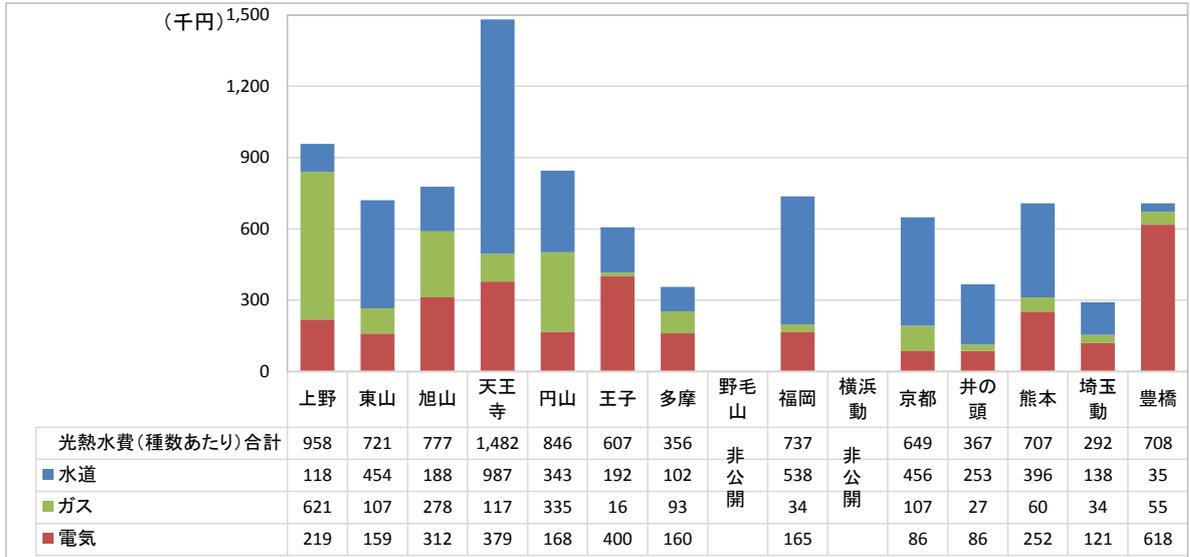
(4) 公立動物園の入園者数上位15園の光熱水費比較(平成26年度)

平成26年度における公立動物園の光熱水費は、以下のグラフのとおりとなっています。各園によって飼育動物の種類や施設・設備が異なること、特に水道料金については自治体毎に単価が大きく異なることから、単純な比較はできませんが、面積あたり及び飼育動物種数あたりで比較すると、当園の光熱水費は顕著に高額となっています。

面積あたりの光熱水費



飼育動物種数あたりの光熱水費



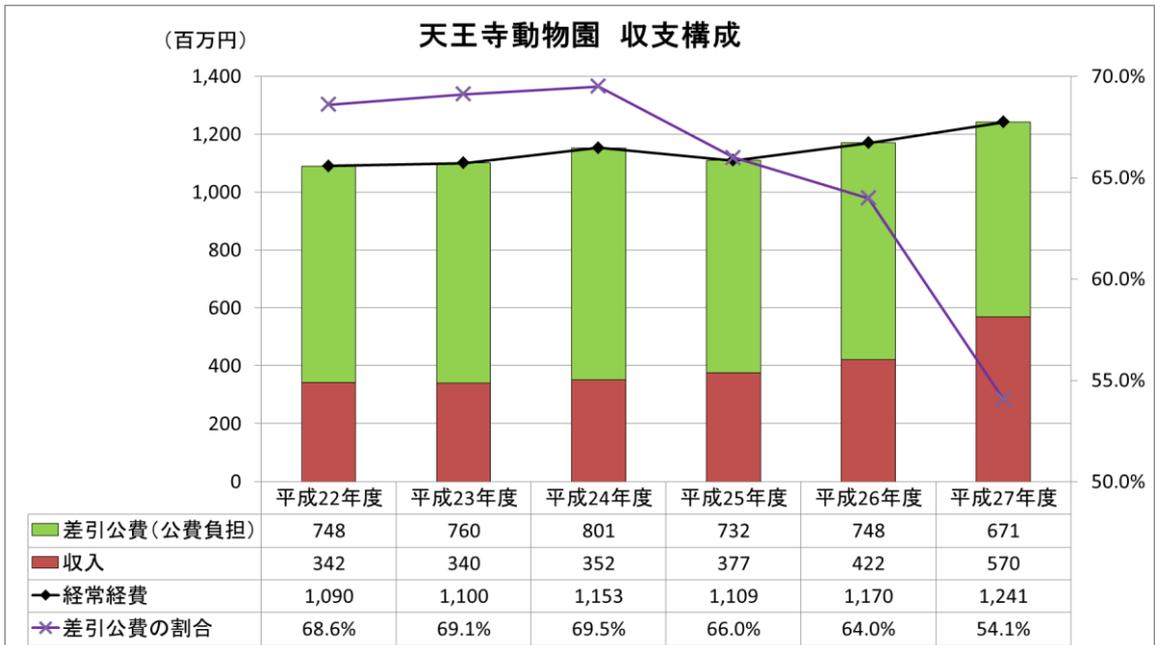
※平成26年度日本動物園水族館年報より

 ※総面積の単位は千m²、費用の単位は千円

3. 公費負担率の推移

経常経費に対する公費負担率は、平成22年度から平成24年度までは7割弱を推移していましたが、入園者数及び入園料収入が増加したことから、平成26年度には64%まで下がっており、平成27年度については54%まで下がる見込みです。

※平成27年度は決算見込



4. 職員構成

(1) 職員構成

平成27年度における職員構成は以下のとおり。

職種	人数
動物飼育	35人
動物管理 (うち、獣医)	13人 (9人)
管理運営	20人
施設管理	16人
合計	84人

※単年度配置の施設管理（美装化チーム）22名は除いている。

5. 飼育動物関係

(1) 飼育動物種数・点数（平成28年3月現在）

	哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	無脊椎動物	計
種数	59	66	57	16	14	1	213
点数	336	441	202	77	—	1	1,057

6. 教育普及活動

天王寺動物園では、教育普及活動として、一般来園者に対してのものと事前に依頼を受け実施するプログラムがあり、それぞれ年間下記の回数実施しています。

天王寺動物園における教育普及活動（平成26年度）

■一般来園者対象のもの

獣医さんのお話	月1回
飼育係による動物君たちの一日	月1回
ボランティアによる絵本の読み語り	月2回
動物園サマースクール	4日間
動物相談	234件
飼育係によるワンポイントガイド	3,068回
その他の教育普及イベント	192回

■依頼により実施したもの

動物ショート・ガイド	26回
ズー・スクール	95回
動物園ガイドウォーク	49回
職業体験講座	33回
動物園・職場紹介	35回
動物園・職場紹介出張スクール	37回

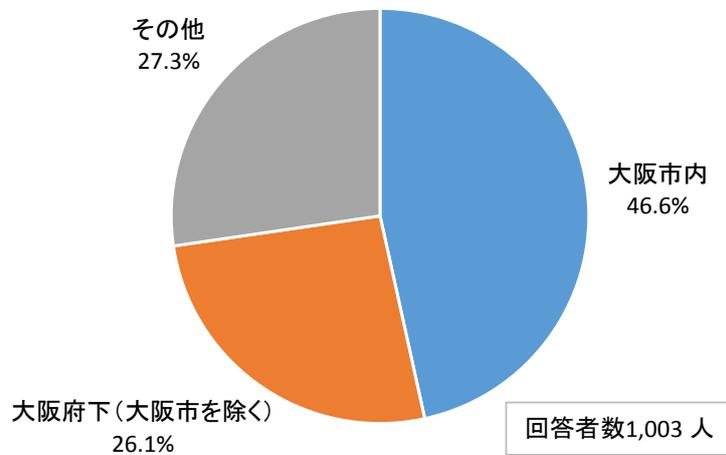
7. 来園者データ

7-1 国内来園者

当園では、アンケート台を園内に据え置いて任意での記入により来園者アンケートを実施しています。本項で紹介するデータは、平成27年4月から9月までの来園者アンケートを集計したものです。なお、アンケート様式が日本語のみのため、外国人からの回答はほとんど含まれていないものと考えられます。

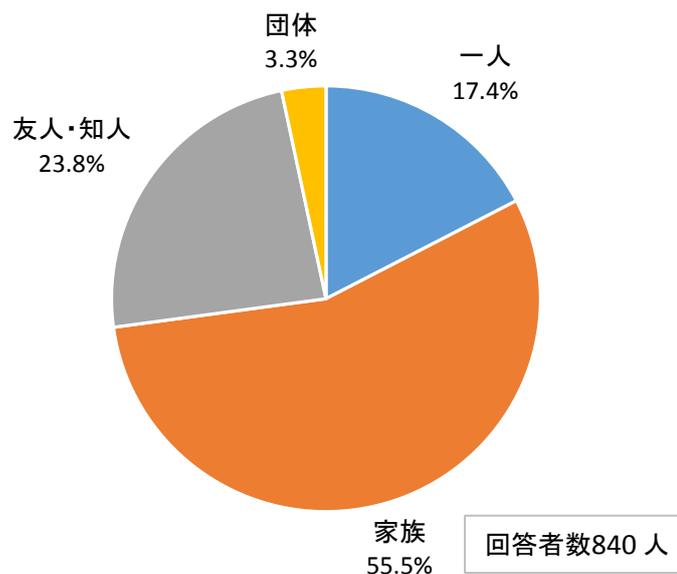
<お住まいの地域>

居住地は、「大阪市内」が46.6%で最も多く、次いで「その他」が27.3%、「大阪府下（大阪市を除く）」が26.1%でした。「その他」では、兵庫県、奈良県、東京都、京都府、滋賀県と、大阪近郊の府県と東京都が多くなっています。



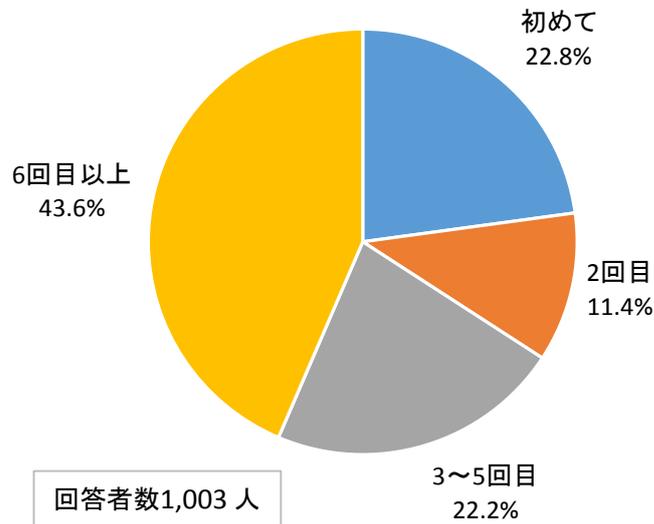
<ご来園構成は（ご来園の人数）>

来園の構成は、「家族」が55.5%で最も多く、次いで「知人・友人」が23.8%、「一人」が17.4%でした。



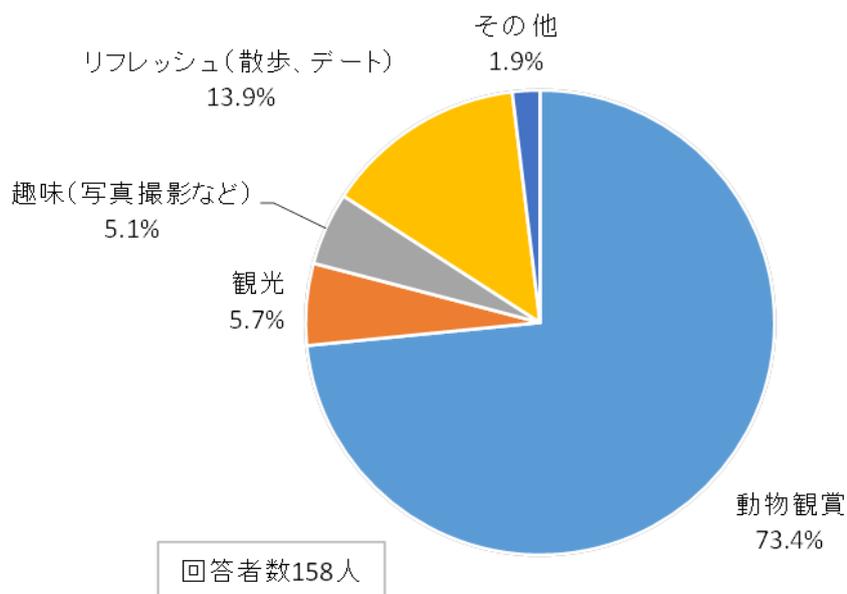
<お越しになられたのは>

来園回数は、「6回目以上」が43.6%で最も多く、次いで「初めて」が22.8%、「3～5回目」が22.2%でした。2回目以上の方が約4分の3以上を占めています。



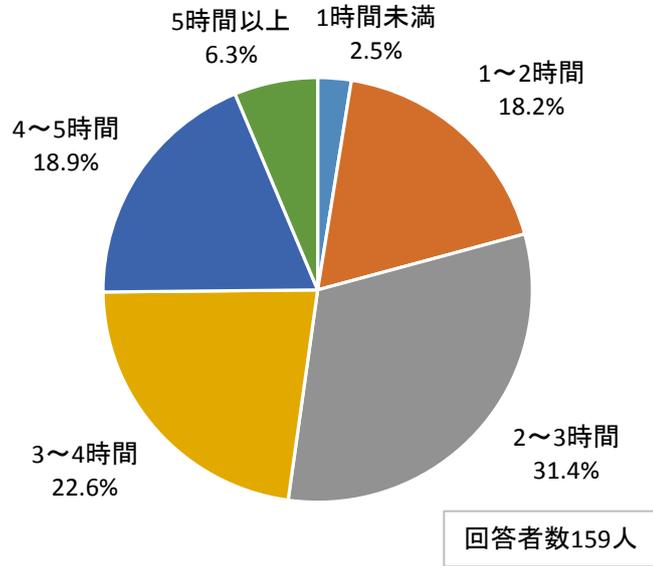
<来園の目的は>

来園の目的は、「動物観賞」が73.4%で最も多く、次いで「リフレッシュ（散歩、デート）」が13.9%、「観光」が5.7%でした。



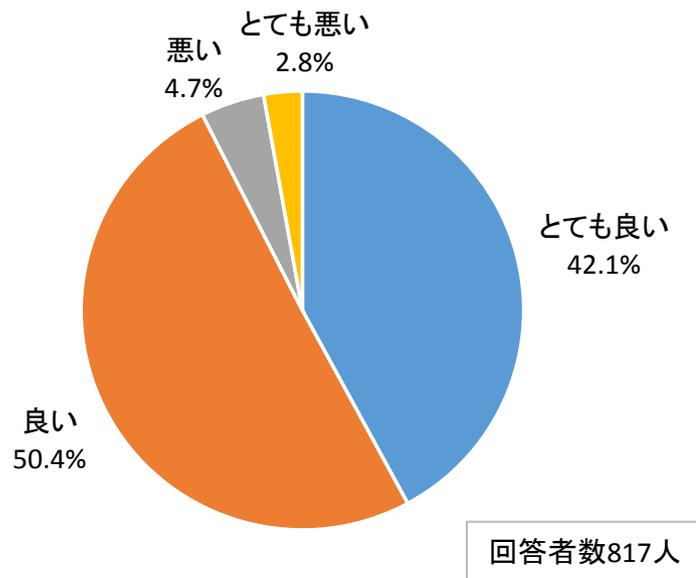
<園内におられた時間>

園内での滞在時間は、「2～3時間」が31.4%で最も多く、次いで「3～4時間」が22.6%、「4～5時間」が18.9%でした。



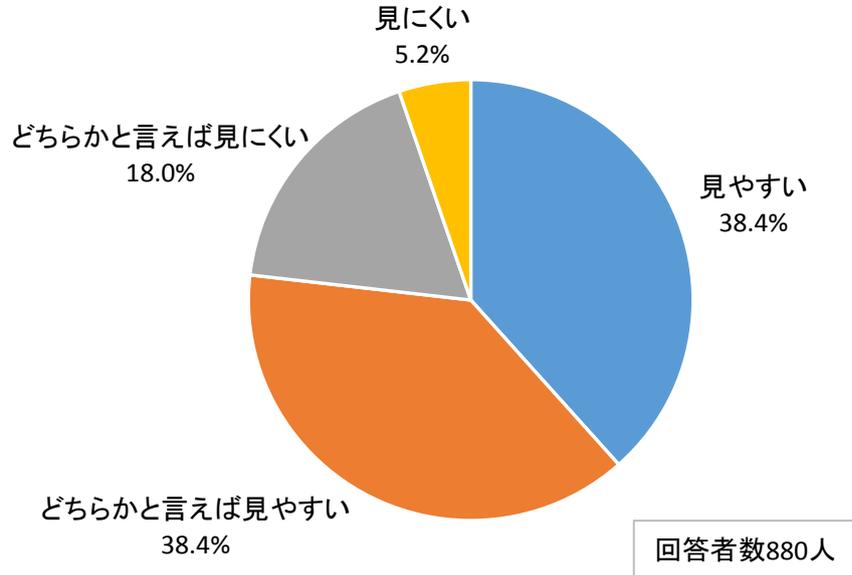
<現在、天王寺動物園では知識・思い出・体験を少しでもお持ち帰りいただけるよう心がけています。職員の対応や雰囲気はどうでしたか>

職員の対応や雰囲気は、「良い」が50.4%で最も多く、次いで「とても良い」が42.1%、「悪い」が4.7%でした。



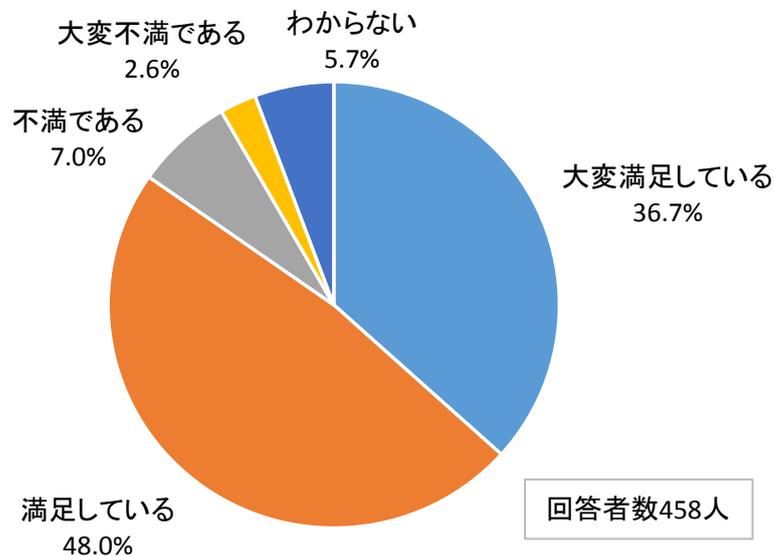
<展示動物の見やすさはいかがでしたか>

展示動物の見やすさは、「見やすい」と「どちらかと言えば見やすい」が 38.4%で最も多く、次いで「どちらかと言えば見にくい」が 18.0%、「見にくい」が 5.2%でした。



<天王寺動物園に対する総合的な満足度をお聞かせください。>

動物園の総合的な満足度は、「満足している」が 48.0%で最も多く、次いで「大変満足している」が 36.7%、「不満である」が 7.0%でした。



<園内の良かった点、悪かった点など、お気づきになられたことがありましたら、ご記入ください。>

園内の良かった点、悪かった点としてご意見をいただいたのは、「動物の見せ方・設備」が 22.0%で最も多く、次いで「動物の種類・数」が 9.6%、「お土産・売店」が 9.0%でした。

7-2 インバウンド

(1) 外国人観光客入園者数（推計）

ゲートで入園者を観察した結果、大阪周遊パスを利用している人の大半が外国人でした。この結果を踏まえ、周遊パス利用者の数を外国人入園者の動向の代理指標として扱うこととしました。さらに、ゲートでの観察結果を踏まえ、周遊パスを利用せずに入園した人も含めた外国人入園者総数を周遊パス利用者の1.4倍と推定しました。

推計の結果、平成27年度外国人来園者数は前年度より、ほぼ倍増しているとみられ、入園者全体の7%に達していると考えられます。

	大阪周遊パス利用 入園者数(a)	外国人入園者数 推計(a×1.4)	動物園入園者 総数	外国人入園者 比率
平成26年度	45,343人	63,480人	1,363,988人	4.7%
平成27年度	86,879人	121,630人	1,730,606人	7.0%

(2) アンケート調査

外国人入園者へのアンケートを関西外国語大学の協力を得て、下記の日程で実施しました。

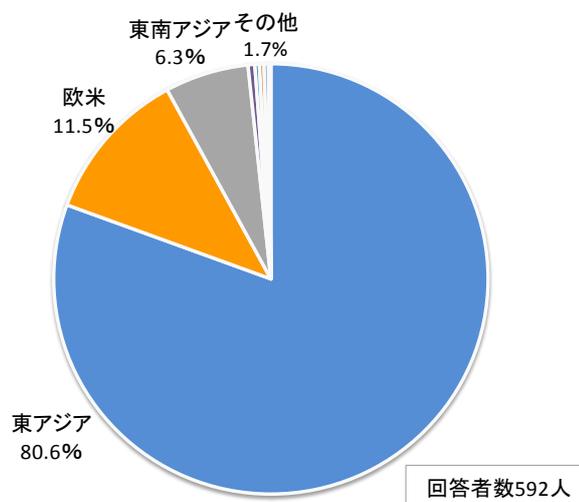
【アンケート調査実施日】平成27年6月28日、30日、7月4日、5日
11月28日、12月5日、6日

【調査方法】動物園出口ゲート付近での聞き取り調査

【出典】関西外国語大学PBL(Project Based Learning；課題解決型授業)
平成27年度最終報告会資料

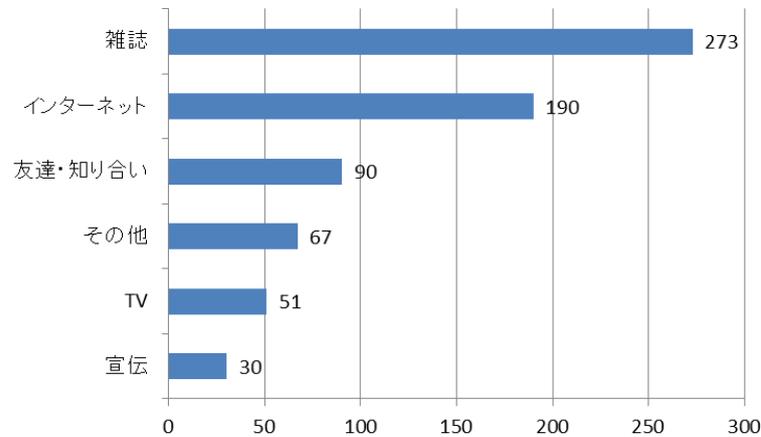
≪国籍≫

香港、韓国、台湾、中国など東アジア地域からの入園者が全体の80%を占めています。東南アジアも含めれば、アジアからの入園者が約88%を占めています。



≪動物園の情報≫

来園のきっかけとなる動物園に関する情報の入手先としては、雑誌等 273 人、インターネット 190 人、友達・知り合い 90 人の順に多いという結果でした。(複数回答あり)



8. 経営形態

平成 27 年度における公立動物園の入園者数上位 15 園の経営形態は以下のとおりです。なお、指定管理者制度を導入した園では、管理者として当該自治体が所管する公益財団法人を指定している例が多いです。なお、国内の全ての公立動物園において、地方独立行政法人の制度を採用している施設は現在のところ存在しません。

施設名称	経営形態	管理者
恩賜上野動物園	指定管理者	(公財) 東京動物園協会
東山動物園	直営	名古屋市
天王寺動物園	直営	大阪市
旭山動物園	直営	旭川市
王子動物園	直営	神戸市
よこはま動物園	指定管理者	(公財) 横浜市緑の協会
京都市動物園	直営	京都市
野毛山動物園	指定管理者	(公財) 横浜市緑の協会
多摩動物公園	指定管理者	(公財) 東京動物園協会
円山動物園	直営	札幌市
福岡市動物園	直営	福岡市
井の頭自然文化園	指定管理者	(公財) 東京動物園協会
豊橋総合動植物公園	直営 (一部指定管理者)	豊橋市 (公財) 豊橋みどりの協会
姫路市立動物園	直営	姫路市
熊本市動植物園	直営	熊本市

参考2 用語解説

	用語	解説	該当ページ
あ	ICT (アイシーティー)	ITの概念をさらに一歩進め、IT=情報技術に通信コミュニケーションの重要性を加味した言葉。 Information and Communication Technology の略。	4-8
あ	ISIS (アイエスアイエス)	国際種情報システム機構 International Species Information System の略。 世界各国の動物園水族館が加盟しており、飼育動物の個体情報を集積するためのデータベースを管理運営している。	5-3, 9-16
あ	アカデミー	学芸に関する教育・研究機関の称。	3-4
あ	アクティブ・ラーニング	教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれる。また、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業。	5-9
い	ESD (イエステディー)	持続可能な社会づくりの担い手を育成するための教育のこと。 Education for Sustainable Development の略。	5-7
い	異常行動	自然の中で暮らす動物には見られない行動。檻の中や狭い空間に閉じ込められたり、社会性が失われたりした動物にみられることがある。同じところを行き来する、首を左右に振り続けるといった同じ動作を反復して繰り返す行動（常同行動）などがよく知られている。	6-1
い	遺伝的多様性	ある一つの種の中での遺伝子の多様性のこと。計算された計画的な種の管理を進めることで、飼育下個体群の中でより血縁関係の少ない個体の繁殖を推進し、多様性を確保することが重要とされている。	5-4, 5-12 9-15
い	イニシャルコスト	新しく事業を始めたり、新しく機械や設備などを導入したり、新しく建築物を建築したりするときなどに、稼働するまでの間に必要となる費用のこと。初期費用。	6-2
い	インバウンド	外国人が訪れてくる旅行のこと。	4-14, 7-1 9-11
え	エコ・フレンドリー	「環境に優しい」の意。	6-14

	用語	解説	該当ページ
え	SNS (エスエヌエス)	インターネット上の交流を通して社会的ネットワークを構築するサービスのこと。Social Networking Service の略。	4-7
え	ESCO (エスコ) 事業	事業者が顧客の光熱水費等の経費削減を行い、削減実績から対価を得るビジネス形態のこと。Energy Service Company 事業の略。	7-2, 9-4
え	NPO (エヌピーオー)	民間非営利団体。社会的な問題に、非営利で取り組む民間団体。Non-Profit Organization の略。	4-4, 4-6 4-15, 9-15
え	エポック	新しく画期的な時代、のこと。	6-1
お	大阪周遊パス	観光施設の入場と大阪市内の電車・バスの乗り放題がセットになった、電子カード式の観光乗車券。天王寺動物園での利用も可能。	9-11
お	OJT (オージェイティー)	職場で実務をさせながら行うトレーニングのこと。On-The-Job Training の略。	4-12
お	小沢圭次郎	元桑名藩（現在の三重県）士で、造園家、作庭家。近代初の造園研究家で、日本造園史の研究に多くの功績を遺した。天保 13 年生－昭和 7 年 91 歳で没。	6-20
か	ガイドウォーク	天王寺動物園で実施している教育普及プログラム的一种。動物園の職員が園内を一緒に歩きながら、動物についての解説を行ったり、動物園の見どころを紹介する。	5-1, 5-8 5-9
か	環境エンリッチメント	動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策のこと。エンリッチメント (enrichment) = 充実。	4-3, 4-4 5-5, 6-18 6-19, 6-21
き	企業メセナ活動	企業が、社会貢献の一環として行う芸術文化支援活動のこと。メセナ (mécénat) = フランス語で「芸術文化支援」を指す。	4-18
き	QOL (キューオーエル)	生活の質のことを指す。ある動物がどれだけその種らしく生態に基づいた生活を送り、幸福に感じているかを尺度としてとらえる概念。Quality of Life の略。	5-5, 6-1 6-14, 6-21
く	クラウドファンディング	不特定多数の人がインターネット上などで、他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うことを指す。群衆 (crowd) と資金調達 (funding) を組み合わせた造語。	4-17, 7-5
け	齧歯類 (げっしるい)	哺乳綱齧歯目 (ネズミ目) に属する動物の総称。物をかじるのに適した歯と顎を特徴とし、多くは草食性であるが、雑食性のももある。	6-22
け	検疫	動物の病気の侵入や拡散を防ぐために、対象動物を一定期間隔離し、状態確認や検査等を行うこと。	5-4, 6-30

	用語	解説	該当ページ
け	現業管理体制	現業職場の日常的な職場運営や作業計画を行う現業職の管理を行うリーダーを頂点とした体制。	7-5
け	検体バンク	将来の人工繁殖や調査研究に備えて、多種多様な動物の各種組織や細胞を保存管理し、必要に応じて利用できるようにしておく取り組み、および保存されている検体全体のことを指す。	5-10
こ	公費負担率	動物園の運営に対して必要な経費のうち、入園料収入をはじめとする収入で賄い切れていない、税等によって補填されている割合のこと。 公費負担率(%) = (経常経費 - 収入) / 経常経費 × 100 ※収入 = 入園料収入 + 入園料外収入	7-1, 7-3, 9-5
こ	個体群管理 (飼育下個体群管理)	複数の施設で飼育されている同種の動物のすべての個体を、一つの群れとして捉えて管理すること。個々の施設が飼育できる種ごとの個体数は限られており、性比や年齢に偏りが生じることも多い。そのため、多くの種においてそれぞれの施設が単独で長期的に維持していくことは困難である。よって、複数施設の個体を一群と捉えることでより多くの個体を対象として、個体数の動態や遺伝的多様性に配慮しつつ計画的に個体の施設間移動やペア形成を行うことが求められている。	5-4
こ	コレクション計画	飼育動物の収集・管理計画のこと。天王寺動物園では、新たな計画を平成 27 年 3 月に策定した。	4-2, 4-3 5-1, 5-4 6-6, 6-23 6-30
こ	コロニー	植民地のこと。派生的に、一地域に定着した生物集団のことを指す。一地域に集まって暮らしている同種動物の集団を指すことが多い。	6-37
こ	コンテンツ	中身、内容、容量、項目、意味のこと。	4-2, 4-5 4-6, 4-7 4-10, 5-3
こ	コンポスト	動物のフンなどの有機物を微生物や菌などの作用により発酵させ、植物の成長に利用できるようにした堆肥のこと。	6-9
し	CS (シーエス)	顧客満足のこと。Customer Satisfaction の略。	4-12, 6-32
し	指定管理者制度	地方公共団体やその外郭団体に限定していた公の施設の管理・運営を、株式会社をはじめとした営利企業・財団法人・NPO 法人・市民グループなど法人その他の団体に包括的に代行させることができる制度である。	9-12

	用語	解説	該当ページ
し	市民サポーター制度	5,000円を支払いいただいた方に、10回分の入園が可能なスタンプカードを提供。実質的には、寄付というよりも実態として回数券として機能している。また、特典として、サポーターズデイを設け、バックヤードツアー等を実施している。また、10回分利用した方には景品を提供している。	4-17
し	ZIMS (ジムズ)	動物情報管理システム I S I Sによって運用されているシステムで、動物園水族館で飼育されている動物の個体情報データベース。Zoological Information Management System	5-3
し	JAZA (ジャザ)	公益社団法人日本動物園水族館協会 (Japanese Association of Zoos and Aquariums)。日本国内の151の動物園・水族館で構成されている法人。「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」の4つを目的として活動している。	5-4, 5-6
し	出張講話	天王寺動物園で実施している教育普及プログラム的一种。希望の会場に職員が出向き、動物に関する講話を行う。大阪市内に限る。	4-5, 5-1 5-9
し	種の保存	生物の種の絶滅を防ぐこと。特に、捕獲・採取・輸出入の制限や人工繁殖などの活動を通じて、積極的に種の存続を図ること。	3-1, 3-3 5-12, 6-3
し	ショートガイド	天王寺動物園で実施している教育普及プログラム的一种。飼育係が動物舎の前で、動物の特徴や餌などの説明を行う。	5-1, 5-8 5-9
す	ZOO21計画	老朽化施設の計画的な更新を目指し、平成7年に策定された天王寺動物園のマスタープラン。主に施設整備計画として取り扱われ、様々な生態系を再現した生態的展示を基本とした。	1-1, 4-2 6-1, 6-2 7-4
す	ズーフレンズ会議	天王寺動物園開園100周年を記念して設立された、未来の天王寺動物園について、共に考え、行動するための動物園の「トモダチ」コミュニティ。天王寺動物園と、一般市民・企業との懸け橋となる存在として、世代を超えて、市民目線で動物園を活性化していくためのボランティア組織。	3-4
す	スーベニアショップ	お土産物店。	6-9, 6-31 6-32, 6-38
す	スポンサード	「資金提供を受ける」の意。	4-6, 4-18
そ	ゾーニング	施設全体の設計手法。類似した性格や使用目的の建築物・空間などをまとめ、「ゾーン」をつくること。	4-9, 6-8 6-10
せ	生態的展示	地形や植栽などで景観を作り込むことにより、動物が野生で生息している環境をできる限り再現し、動物と生息環境とのつながりに対する理解を促すとともに、動物の生態により即した飼育環境の提供を目指す展示手法のこと。	1-1, 2-1 4-3, 6-1 6-2, 6-3 6-5, 9-17

	用語	解説	該当ページ
せ	生息域内保全	生物を自然の生息環境において保全すること。	5-6, 5-12
せ	生息域外保全	生物を自然の生息環境外において人間の管理下で保全すること。	5-6, 5-12
て	てんしば	平成 27 年 10 月にリニューアルオープンした天王寺公園エントランスエリアの愛称。	4-8, 4-10 4-13, 6-6 6-14, 6-17, 6-31, 6-37 6-38, 9-1
と	動物園改造 9 ヶ年計画	昭和 35 年から 44 年にかけてそれまでの檻式の動物舎を無柵放養式に改造していった獣舎整備計画。現在でもクマ舎、ムフロン舎（旧バーバリシープ舎）などが残存している。	1-1
と	動物倫理規定	動物福祉の考え方に基づく、動物の管理や取扱いにおいて遵守し実行すべき行動規範	5-5
と	トータルコスト	建物の建設（計画・設計）から使用期間、そして解体までにかかる費用を合わせたもの。	6-2
と	地方独立行政法人	日本における法人のうち、地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）に規定される「住民の生活、地域社会及び地域経済の安定等の公共上の見地からその地域において確実に実施されることが必要な事務及び事業であって、地方公共団体が自ら主体となって直接に実施する必要のないもののうち、民間の主体にゆだねた場合には必ずしも実施されないおそれがあるものと地方公共団体が認めるものを効率的かつ効果的に行わせることを目的として、この法律の定めるところにより地方公共団体が設立する法人」をいう。	9-12
に	ニッチェ（ニッチ）	ある生物が生態系の中で占める位置を意味する生態学用語。生態的地位。	6-8
ね	ネーミングライツ	人間や事物、施設、キャラクターなどに対して命名することができる権利。命名権。	4-18, 7-4
は	ハズバンドリートレーニング	動物の自発的行動を発現させるような飼育手法を用いて、飼育者が望む行動を飼育動物に発現させるためのトレーニング。動物を長期的に健康的に、なおかつ人も安全に飼育することを目的として近年様々な動物種を対象として導入されている。	4-3, 5-5 7-5
は	バックヤード	一般的に、展示物等を保管しておく倉庫などがある施設の裏側、またはそのスペースのことを言う。動物園では、一般来園者が立ち入りできないエリア全体のことを指す場合もある。展示していない動物舎が含まれることもある。	4-6, 5-4 6-2, 6-9 9-16

	用語	解説	該当ページ
は	パドック	補助的に設けられた小さな運動場のこと。	6-29
は	パブリシティ	企業や団体が、マスコミなどに対して積極的に情報公開するなどして、報道されるよう働きかけること。	4-7
は	バリア	障害物のこと。	4-9, 6-37
ひ	P F I (ピーエフアイ)	1990年代に英国において行財政改革を推進する過程で生まれた公共事業の実施手法の一つ。公共施設等の整備等にあって、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用することにより、効率的で質の高い公共サービスの提供を図るもの。	7-4
ひ	ピクト	絵文字、絵単語のこと。ピクトグラムの略。	4-14, 6-35
ふ	プレゼンス	存在感、影響力のある存在のこと。	5-4
へ	ペDESTリアンデッキ	広場と横断歩道橋の両機能を併せ持ち、建物と接続して建設された、歩行者の通行専用的高架建築物のこと。	6-32
ほ	ホスピタリティ	おもてなしの心を持ち、様々なサービスを提供すること、またはその精神。	3-2, 4-1 4-10, 4-12
む	無柵放養式	檻や柵などを使用せず堀（モート）を用いることで、観覧者と飼育動物の間に視界を遮る構造物が存在しないようにした展示方式。	1-1, 9-17
も	モニタリング	計画の効果や達成度について分析し、評価する一段階のこと。	4-12
ゆ	ユニバーサル	「普遍的な」といった意味から、「すべてのひとのための」の意。	4-9
ら	ランニングコスト	施設などの稼動が始まってから使い続けるために必要となる費用。光熱費や各種消耗品代、メンテナンスにかかる費用、定期的に支払う利用料などが含まれる。	6-2
る	ルーティン化	もともと不定期に行っていたものを一連のものとしてパターン化し、定期的実施していくこと。	4-7
わ	ワークショップ	学びや創造、問題解決やトレーニングの手法。本来は「作業場」や「工房」のことを指すが、現在においては参加者が経験や作業を披露したりディスカッションをしながら、スキルを伸ばしたり、方針や結論を導き出す場のこと。	4-6
わ	WAZA (ワザ)	世界動物園水族館協会 (World Association of Zoos and Aquariums)。1935年に設立された世界の動物園・水族館で構成されている団体。各国の動物園水族館協会や個別の動物園・水族館が加盟している。	5-4